

TestRail

管理者ガイド

TestRail 管理者ガイド

TestRail のセットアップに関する情報を記載しています。これから運用を開始したり、TestRail の評価を行う場合にお読みください。

オフラインで閲覧する場合は、PDF 版をダウンロードしてください。



[testrail_guide.pdf](#)

1. はじめに

1. はじめに

本書の説明、前提事項を説明しています。

2. ユーザーとグループ

2. ユーザーとグループ

TestRail にユーザーを追加する方法、権限、ユーザーグループについて説明しています。

3. プロジェクト作成

3. プロジェクト作成

TestRail のプロジェクト作成、プロジェクトのアクセス制御について説明しています。

4. カスタマイズ

4. カスタマイズ

テストケースやテスト結果のカスタムフィールド、UI スクリプトなどの TestRail のカスタマイズについて説明しています。

5. テストケースのインポート

5. テストケースのインポート

Excel ファイルなど TestRail 外部で管理しているテストケースをインポートする方法について説明しています。

6. 高度な設定

6. 高度な設定

TestLink からの移行、課題・要件管理ツール連携、REST API の利用について説明します。

7. その他

7. その他

TestRail のバックアップなど、知っていると便利な Tips を紹介します。

1. はじめに

本書は [TestRail 6.3.1.1008](#) で動作確認をしています。ご利用の環境によっては、画面レイアウトや操作手順が異なる場合がございます。

1-1. 前提

このガイドは、以下の事項が実施されていることを前提としています。

1-1-1. TestRail がインストールされている

TestRail のシステム要件、インストール方法については [TestRail 管理マニュアル](#) をご参照ください。

- [要件](#)
- [Windows へのインストール](#)
- [Unix/Linux へのインストール](#)
- [Docker へのインストール](#)

1-1-2. TestRail のライセンスが有効である

TestRail のライセンスが有効であることをご確認ください。

ライセンスの有効期間が切れている場合、管理者ユーザーでログイン後自動でライセンス設定画面に遷移します。

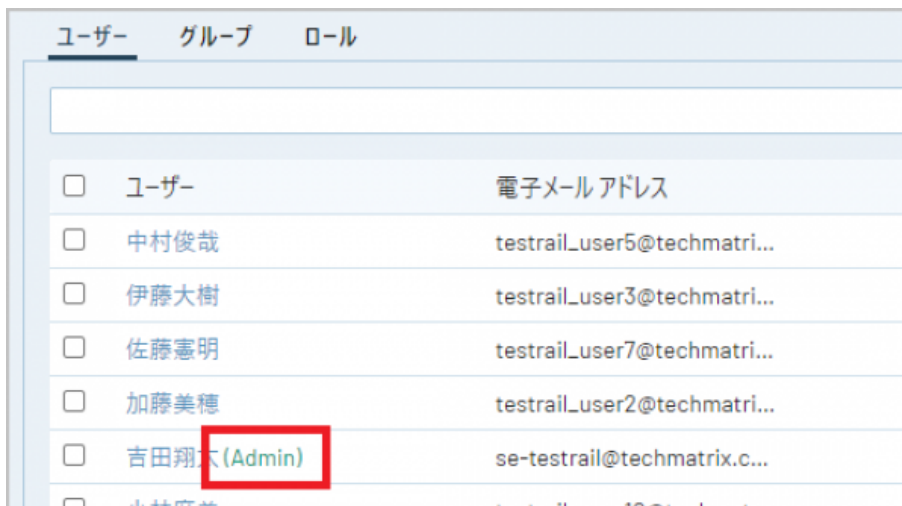
現在利用しているライセンスの有効期限は、[管理] > [ライセンス] で確認できます。

1-1-3. 管理者権限のユーザーである

本ガイドは管理者権限をもつユーザーが操作することを前提としています。

インストール時に作成したユーザーは自動で管理者ユーザーになります。インストール時に作成したユーザー以外で本ガイドの操作をする場合は、管理者ユーザーであることをご確認ください。

ユーザーが管理者ユーザーかどうかは [管理] > [ユーザーとロール] > [ユーザー] タブでユーザー名の横に [\(Admin\)](#) の記載があるかを確認してください。



| ユーザー | グループ | ロール |
|--------------------------|--------------|-----------------------------|
| <input type="checkbox"/> | ユーザー | 電子メールアドレス |
| <input type="checkbox"/> | 中村俊哉 | testrail_user5@techmatri... |
| <input type="checkbox"/> | 伊藤大樹 | testrail_user3@techmatri... |
| <input type="checkbox"/> | 佐藤憲明 | testrail_user7@techmatri... |
| <input type="checkbox"/> | 加藤美穂 | testrail_user2@techmatri... |
| <input type="checkbox"/> | 吉田翔太 (Admin) | se-testrail@techmatrix.c... |
| <input type="checkbox"/> | 小林麻美 | testrail_user10@techmat... |

1-2. TestRail の評価・運用開始までの流れ

1. TestRail をインストールする。
2. TestRail の設定を実施する。（本書ではこの設定に関して説明しています。）
 - ユーザーとグループの設定
 - プロジェクト作成
 - テストケースのインポート
3. TestRail の基本操作を学ぶ。（[チュートリアル](#) を利用する）
4. 評価・運用を開始し、必要に応じて TestRail の設定を変更する。

1-3. リンク

- [チュートリアル](#)
- 次の章：[2. ユーザーとグループ](#)

2. ユーザーとグループ

本章では、ロールとユーザー、グループの作成方法について説明します。TestRail を利用するには、ユーザーが TestRail にログインする必要があり、管理者は TestRail を利用するメンバー毎のログインユーザーを作成します。

2-1. ユーザーの追加

ユーザーの追加は、[管理] > [ユーザーとロール] > [ユーザー] タブで行います。

ユーザーの追加は、1 ユーザー毎追加する方法と、複数ユーザーを一度に追加する方法の 2 通りがあります。

2-1-1. ユーザーを 1 人ずつ追加する

ユーザーの追加 ボタンを押下します。

ユーザータブ

- 登録するユーザーに合わせてユーザー情報を設定します。
 - 本画面で設定した内容は、ユーザーがログイン後、変更することができます。

ユーザーの追加

ユーザー アクセス

フルネーム*

例: John Doe または Jane Doe

電子メールアドレス*

電子メール通知を有効化
 テストが変更されたり、テスト結果が入力されたときに電子メール通知を送信します。注意: この機能を使用するには、グローバルな電子メール通知も有効にする必要があります。

言語*

アプリケーションのデフォルトを使用 ▼

ユーザー インターフェイスの言語を指定します。

テーマ*

Modern ▼

ユーザー インターフェイスのテーマを指定します。

ロケール*

アプリケーションのデフォルトを使用 ▼

日付および数値の書式を指定します。

タイムゾーン*

アプリケーションのデフォルトを使用 ▼

日付および時間に使用するタイムゾーンを指定します。

シングル サインオン (SSO) 認証の有効化
 このボックスをオンにすると、このユーザーでは標準の認証が無効化され、代わりに認証統合 ([サイト設定] で設定) を使用するようになります。

電子メールでユーザーを招待
 このオプションは、新規ユーザーにパスワードの設定方法の案内を記載した招待メールを送信するのに使用します (パスワードは送信されません)。

手動でパスワードを指定する (招待メールは送信されません)
 このオプションを選択した場合は、招待メールは送信されません。手動でパスワードを指定します。

- 電子メールでユーザーを招待
 - 新規ユーザー登録後、パスワード設定用のリンクをユーザーに対してメール送信します。
 - ユーザーは、メールに記されたリンクから TestRail にアクセスして初回ログインを行うことができます。
 - 事前にメールサーバーの設定が必要です。メールサーバーの設定は [管理] > [サイト設定] > [電子メール] タブで行います。

- 注意: TestRail は STARTTLS を使ったメール送信に対応していません。STARTTLS を使っている場合は、中継サーバー等を設定してください。

- 手動でパスワードを指定する (招待メールは送信されません)
 - ユーザー登録時に、管理者がパスワードの登録も行います。
 - ユーザー登録後、ユーザーには登録されたことを知らせるメール通知は行われません。

- 登録したパスワード情報を、ユーザーに通知する必要があります。

アクセスタブ

- 登録するユーザーに合わせてユーザーのアクセス権を設定します。
- ロール、グループについては、本章の以降の項目で説明します。

ユーザーの追加

ユーザー
アクセス

ロール*

Lead
▼

ユーザーのグローバルなロール、つまりユーザーのパーミッションを指定します。個々のプロジェクトで設定を上書きできます。[プロジェクト設定 詳細](#)

このユーザーはアクティブ

すべてのアクティブなユーザーに TestRail ライセンスが必要です。もうアクセスする必要がないユーザーを無効化してライセンスを再利用することができます。

このユーザーは管理者

管理者はプロジェクトの追加や削除、ユーザーの管理、TestRail の設定などを行うことができます。

グループ

選択 すべて | なし

ユーザーのグループ(グループのメンバーシップ)を設定できます。

- **このユーザーはアクティブ**
 - ユーザーが TestRail にログインするには、アクティブ (チェックボックスがON) である必要があります。
 - 人員の入替など、TestRailのログインが不要にならない限り、アクティブとしてください。
- **このユーザーは管理者**
 - 管理者は、TestRail の管理メニューの操作を行うことができます。
 - 通常、テスト管理のためだけにTestRailを利用する場合、管理者である必要はありません。
- ユーザーの追加 ボタンを押下してユーザーを登録します。

2-1-2. 一度に複数ユーザーを追加する

- 複数のユーザーの追加 ボタンを押下します。
- 追加するユーザー名とメールアドレスをカンマ区切りで設定します。

- この例では 2 ユーザーが追加されます。

The screenshot shows two panels. The left panel, titled 'ユーザー*', contains a text area with the following text: 'Alice Doe, alice@example.com' and 'Bob Doe, bob@example.com'. The right panel, titled 'プレビュー', contains a table with two rows of user data:

| | | | |
|---|-----------|-------------------|----|
| 1 | Alice Doe | alice@example.com | 新規 |
| 2 | Bob Doe | bob@example.com | 新規 |

- ユーザーのロールやグループ、言語などをデフォルト値から変更する場合は、「ロールやグループなどのその他のフィールドを設定するか、デフォルトのままにします。」をクリックして設定を行います。
- ここで設定した内容は、追加する全ユーザーに反映されます。

The screenshot shows a configuration panel with several sections:

- 言語***: A dropdown menu set to 'アプリケーションのデフォルトを使用'. Below it, the text reads: 'ユーザー インターフェイスの言語を指定します。'
- ロケール***: A dropdown menu set to 'アプリケーションのデフォルトを使用'. Below it, the text reads: '日付および数値の書式を指定します。'
- タイムゾーン***: A dropdown menu set to 'アプリケーションのデフォルトを使用'. Below it, the text reads: '日付および時間に使用するタイムゾーンを指定します。'
- ロール***: A dropdown menu set to 'Lead'. Below it, the text reads: '新規ユーザーのグローバルなロール、つまりユーザーのパーミッションを指定します。個々のプロジェクトで設定を上書きできます。 [プロジェクト設定 詳細](#)'
- グループ**: A dropdown menu set to '選択すべて|なし'. Below it, the text reads: '新規ユーザーのグループ(グループのメンバーシップ)を指定します。'

- メール送信設定を行います。

☑️ 新規ユーザーに招待メールを送信する

このオプションは、新規ユーザーにパスワードの設定方法の案内を記載した招待メールを送信するのに使われます(パスワードは送信されません)。外部認証(LDAP/Active Directoryなど)を使用する場合は、無効にするとよいでしょう。

- チェックボックスを有効化していると、新規ユーザーの登録後、ユーザーに対してパスワード設定用のリンクがメール送信されます。
 - ユーザーは、メールに記されたリンクから TestRail にアクセスしてパスワード設定、初回ログインを行うことができます。
 - 事前にメールサーバーの設定が必要です。メールサーバーの設定は [管理] > [サイト設定] > [電子メール] タブで行います。
- 注意：TestRail は STARTTLS を使ったメール送信に対応していません。STARTTLS を使っている場合は、中継サーバー等を設定してください。

2-1-3. ライセンスとユーザーについて

TestRail のライセンスは、TestRail 上で アクティブ なユーザー数に紐づきます。

ログインしたことが無いユーザーや、現在ログイン中ではないユーザーであっても、ステータスがアクティブであればライセンスは消費されます。

ライセンスを解放したい場合は、ユーザーのステータスを 非アクティブ に変更します。(非アクティブにするとログインできなくなります。)

例えば、登録されているユーザーが次の画像の状態である場合、ステータスが アクティブ なユーザーが 3 人存在するので TestRail のライセンスは 3 ユーザー分利用されていることになります。

| ユーザー | グループ | ロール |
|--------------------------|-------------------------|-------------------------|
| <input type="checkbox"/> | ユーザー | 電子メールアドレス |
| <input type="checkbox"/> | Hanako Techmatrix | hanako@techmatrix.co.jp |
| <input type="checkbox"/> | Hoge Techmatrix | hoge@techmatrix.co.jp |
| <input type="checkbox"/> | Taro Techmatrix (Admin) | taro@techmatrix.co.jp |

| ログインタイプ | 最終アクティブ日 | ステータス | ロール |
|---------|--------------------|-------|------|
| ローカル | 11th December 2020 | アクティブ | Lead |
| ローカル | ログイン記録なし | アクティブ | Lead |
| ローカル | 11th December 2020 | アクティブ | Lead |

上の画像を次の画像のように変更した場合、TestRail のライセンスは 2 ユーザー分利用されていることになります。

| ユーザー | グループ | ロール |
|--------------------------|-------------------------|-------------------------|
| <input type="checkbox"/> | ユーザー | 電子メールアドレス |
| <input type="checkbox"/> | Hanako Techmatrix | hanako@techmatrix.co.jp |
| <input type="checkbox"/> | Hoge Techmatrix | hoge@techmatrix.co.jp |
| <input type="checkbox"/> | Taro Techmatrix (Admin) | taro@techmatrix.co.jp |

| ログインタイプ | 最終アクティブ日 | ステータス | ロール |
|---------|--------------------|-----------|------|
| ローカル | 11th December 2020 | アクティブ | Lead |
| ローカル | ログイン記録なし | 非アクティブ... | Lead |
| ローカル | 11th December 2020 | アクティブ | Lead |

ユーザーのステータスを変更する方法

ユーザーのステータスを切り替えるには、ユーザー一覧画面のステータスプルダウンを選択します。

| ユーザー | グループ | ロール | 電子メールアドレス | ログインタイプ | 最終アクティブ日 | ステータス | ロール | |
|--------------------------|------|-----|-------------------------|---------|--------------------|-------|------|--------------------|
| <input type="checkbox"/> | | | Hanako Techmatrix | ローカル | 11th December 2020 | アクティブ | Lead | 編集 |
| <input type="checkbox"/> | | | Hoge Techmatrix | ローカル | ログイン記録なし | アクティブ | Lead | 編集 |
| <input type="checkbox"/> | | | Taro Techmatrix (Admin) | ローカル | 11th December 2020 | アクティブ | Lead | 編集 |

または、ユーザーを選択してユーザーの編集画面で このユーザーはアクティブ チェックボックスを ON/OFF します。

ユーザーの編集

ユーザー アクセス

ロール*

Lead

ユーザーのグローバルなロール、つまりユーザーのパーミッションを指定します。個々のプロジェクトで設定を上書きできます。[プロジェクト設定 詳細](#)

最終アクティブ日: ログイン記録なし

このユーザーはアクティブ

すべてのアクティブなユーザーに TestRail ライセンスが必要です。もうアクセスする必要がないユーザーを無効化してライセンスを再利用することができます。

このユーザーは管理者

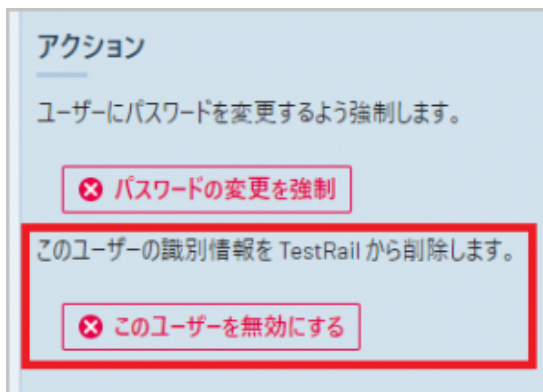
管理者はプロジェクトの追加や削除、ユーザーの管理、TestRail の設定などを行うことができます。

グループ

選択 すべて | なし

ユーザーの非アクティブと無効化

ユーザー編集画面の右側に表示されるアクションの このユーザーを無効にする は、ユーザーの非アクティブ化とは異なります。



このユーザーを無効にする を選択した場合、該当のユーザーは個人を特定できないようにユーザー名やメールアドレスが難読化した値に置き換えられます。

| ユーザー | 電子メールアドレス | ログインタイプ | 最終アクティブ日 | ステータス | ロール | |
|--------------------------|-------------------------|---------------------------|----------|--------------------|----------|------|
| <input type="checkbox"/> | F16076645183957 | F16076645183957@gurock.io | ローカル | ログイン記録なし | 非アクティ... | Lead |
| <input type="checkbox"/> | Hanako Techmatrix | hanako@techmatrix.co.jp | ローカル | 11th December 2020 | アクティブ | Lead |
| <input type="checkbox"/> | Taro Techmatrix (Admin) | taro@techmatrix.co.jp | ローカル | 11th December 2020 | アクティブ | Lead |

TestRail 上でこのユーザーがおこなった活動 (テスト結果の登録やテストケースの作成など) は全て置き換えられたユーザー名で更新され、TestRail 上のあらゆるデータからユーザー個人を特定することができなくなります。

TestRail のライセンス解放を目的とする場合は、必ず無効化ではなく、ステータスの 非アクティブ 化をしてください。

2-1-4. シングルサインオン (SSO) について

カスタム認証スクリプトを利用すると、外部システムと統合して SSO (シングルサインオン) 機能を実装することができます。

Active Directory サービスや LDAP サービスと統合するカスタム認証スクリプトも提供しています。

詳細は、[オンラインマニュアル](#)の 認証とシングルサインオン をご確認ください。

認証とシングルサインオン

TestRail Enterprise 版を利用すると、SAML 2.0 プロトコルを使用する任意の SSO ID プロバイダー (IdP) と TestRail を統合することもできます。

TestRail Enterprise 版についてご興味がありましたら、[お問い合わせ](#)ください。

2-2. グループの追加

TestRail では、複数のユーザーをグループで管理することができます。

1人のユーザーが複数のグループに所属することができ、作成したグループは、TestRail 上のプロジェクトに対するアクセス権の管理に利用します。特定のプロジェクトに関係したユーザーや、プロジェクトに対して同じアクセス権限を持たせたいユーザーをまとめて管理できます。

グループの編集

名前*

例: OA London、In-house または Client A

ユーザー

選択すべて/なし

- 中村俊哉
- 伊藤大樹
- 佐藤憲明
- 加藤美穂
- 吉田翔太 (Admin)
- 小林麻美
- 山本春香
- 渡辺浩二
- 田中次郎
- 鈴木孝
- 高橋啓介

このグループに参加するユーザーを選択してください。

2-3. ロール

ロールとは、ユーザーおよびグループに割り当てるアクセス権です。

TestRail には、Read-only、Tester、Designer、Lead の 4 つのロールがあらかじめ用意されています。

次の表は、各ロールにおけるデフォルトの権限です。

- ○ : 操作可
- × : 操作不可
- - : 機能が存在しない

| ロール | パーミッション | 追加・編集 | 削除 | 閉じる | 修正 |
|-----------|------------|-------|----|-----|----|
| Read-only | 添付ファイル | × | × | - | - |
| | ケースとセクション | × | × | - | - |
| | 設定 | × | × | - | - |
| | マイルストーン | × | × | - | - |
| | ランと計画 | × | × | × | - |
| | ランと計画 (完了) | - | × | - | - |
| | レポート | × | × | - | - |
| | レポート (定期) | × | × | - | - |
| | スイート | × | × | - | - |
| | テスト結果 | × | - | - | × |
| Tester | 添付ファイル | ○ | ○ | - | - |
| | ケースとセクション | × | × | - | - |
| | 設定 | × | × | - | - |
| | マイルストーン | × | × | - | - |
| | ランと計画 | ○ | × | × | - |
| | ランと計画 (完了) | - | × | - | - |
| | レポート | ○ | ○ | - | - |
| | レポート (定期) | ○ | ○ | - | - |
| | スイート | × | × | - | - |
| | テスト結果 | ○ | - | - | × |
| Designer | 添付ファイル | ○ | ○ | - | - |
| | ケースとセクション | ○ | ○ | - | - |
| | 設定 | × | × | - | - |
| | マイルストーン | × | × | - | - |
| | ランと計画 | ○ | × | × | - |
| | ランと計画 (完了) | - | × | - | - |
| | レポート | ○ | ○ | - | - |
| | レポート (定期) | ○ | ○ | - | - |
| | スイート | × | × | - | - |
| | テスト結果 | ○ | - | - | × |
| Lead | 添付ファイル | ○ | ○ | - | - |
| | ケースとセクション | ○ | ○ | - | - |
| | 設定 | ○ | ○ | - | - |
| | マイルストーン | ○ | ○ | - | - |
| | ランと計画 | ○ | ○ | ○ | - |
| | ランと計画 (完了) | - | × | - | - |
| | レポート | ○ | ○ | - | - |
| | レポート (定期) | ○ | ○ | - | - |
| | スイート | ○ | ○ | - | - |
| | テスト結果 | ○ | - | - | × |

インストール後は Lead ロールがデフォルトのロールに設定されており、ユーザーやグループの作成時に指定が無い場合は自動的に Lead がユーザーのロールに割り当てられます。

ご利用の状況に合わせて、デフォルトのロールを Lead から変更したり、4 つのロールの設定を変更すること、新しいロールを追加することもできます。

ロールの追加/編集は、[管理] > [ユーザーとロール] > [ロール] タブで行います。

2-3-1. グローバルロールとプロジェクトアクセスについて

各ユーザーに設定されているロールは [グローバルロール](#) です。

グローバルロールは、各プロジェクトに対するアクセス権として利用されます。

例えば、ユーザー設定で Lead ロールが割り当てられているユーザーは、プロジェクト側で制御をしない限り、TestRail 状の全プロジェクトに対して Lead の権限でアクセスできます。これは、このユーザーが全プロジェクトのテストケースの追加/削除/変更ができることを意味しています。

各ユーザーのグローバルロールでプロジェクトにアクセスさせないようにするには、プロジェクト毎にアクセス権を設定する必要があります。詳細は、[プロジェクト作成](#) をご確認ください。

2-4. リンク

- [前の章：1. はじめに](#)
- [次の章：3. プロジェクト作成](#)
- [関連マニュアル：ユーザーのパーミッションとロールの管理](#)
- [関連マニュアル：ユーザーとセキュリティの管理](#)

3. プロジェクト作成

本章では、プロジェクトの作成について説明します。プロジェクトは TestRail の主要な構成単位です。一般的には、TestRail 内で管理するソフトウェア プロジェクトごとに TestRail プロジェクトを作成します。

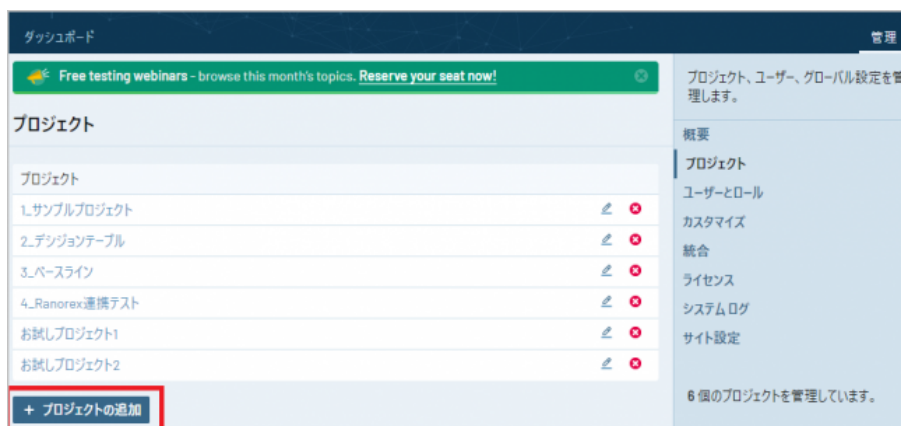
3-1. プロジェクトを作成する

プロジェクトの追加/編集は、以下からできます。

- ダッシュボード画面の [プロジェクトの追加] ボタン



- [管理] タブ > [プロジェクト] > [プロジェクトの追加] ボタン



3-2. プロジェクトタイプの選び方

TestRail には 3 つのプロジェクトタイプがあります。それぞれテストケースの管理方法が異なるため運用にあったプロジェクトタイプを選択してください。

3-2-1. すべてのケースについて単一リポジトリを使用する

- プロジェクト内のすべてのテストケースを一つのテストスイート(リポジトリ)で管理するプロジェクトタイプです。

- テストスイート内のセクションやサブセクションを使用することでテストケースを分類することができます。
- プロジェクトの構成がシンプルであり、テストランやテスト計画の作成、プロジェクト全体のレポート作成を簡単に行うことができるプロジェクトタイプです。
- テストスイートをバージョン管理する場合は、「ベースラインサポートありの単一リポジトリ」を利用してください。

3-2-2. ベースライン サポートありの単一リポジトリを使用する

- プロジェクト内のすべてのテストケースを一つのテストスイート(リポジトリ)で管理するプロジェクトタイプです。
- テストスイート内のセクションやサブセクションを使用することでさらにテストケースを分類することができます。
- テストスイート全体をベースラインとして保持する（バージョン管理する）ことができ、いつでも必要なベースラインのテストケースを使うことができます。
- 並行開発などプロジェクトで複数バージョンのテストを管理する必要がある場合や、以前のバージョンのテストを実施することがある場合はこのプロジェクトタイプを利用します。

3-2-3. 複数テスト スイートを使用してケースを管理する

- テストプロジェクト内のテストケースを複数のテストスイート(リポジトリ)で管理するプロジェクトタイプです。
- テストスイート内のセクションやサブセクションを使用することでさらにテストケースを分類することができます。
- テストケースを機能やテスト手法で分けて管理したい場合はこのプロジェクトタイプを利用します。
- 一部のレポートはテストスイート単位で生成されます。プロジェクト全体の情報を確認するには、テストスイート数分のレポート生成が必要です。

3-2-4. 注意

- UI テスト自動化ツール Ranorex と連携する場合は、「複数テストスイートを使用してケースを管理する」を使用する必要があります。
- 「すべてのケースについて単一リポジトリを使用する」で作成したプロジェクトを、「ベースラインサポートありの単一リポジトリを使用する」や「複数テストスイートを使用してケースを管理する」に変更することはできません。

3-3. アクセス権の設定

ユーザーに対してプロジェクトのアクセス権を制御することができます。

プロジェクトの編集 > [アクセス] タブで設定を行います。

プロジェクトの編集

プロジェクト
アクセス
欠陥
参照

デフォルトアクセス*

グローバルロール
▼

このプロジェクトのデフォルトアクセスを指定します。デフォルトアクセスは、下でユーザーまたはグループごとの上書きできます。[詳細](#)

| ユーザー | グローバルロール | プロジェクトアクセス |
|--------------|----------|------------|
| 中村俊哉 | Lead | - ▼ |
| 伊藤大樹 | Lead | - ▼ |
| 佐藤憲明 | Lead | - ▼ |
| 加藤美穂 | Lead | - ▼ |
| 吉田翔太 (Admin) | Lead | - ▼ |
| 小林麻美 | Lead | - ▼ |
| 山本春香 | Lead | - ▼ |
| 渡辺浩二 | Lead | - ▼ |
| 田中次郎 | Lead | - ▼ |
| 鈴木孝 | Lead | - ▼ |
| 高橋啓介 | Lead | - ▼ |

グループ プロジェクトアクセス

ユーザーグループがありません。

✓ プロジェクトの保存
✕ キャンセル

ここでは以下の2つの設定を行うことができます。

- プロジェクトのデフォルトアクセスを設定すること
- 特定のユーザーまたはグループにアクセス権を割り当てること

3-3-1. プロジェクトのデフォルトアクセスを設定する

デフォルトアクセスは、プロジェクトのアクセス権を上書きしない すべてのユーザー および グループ に適用されます。

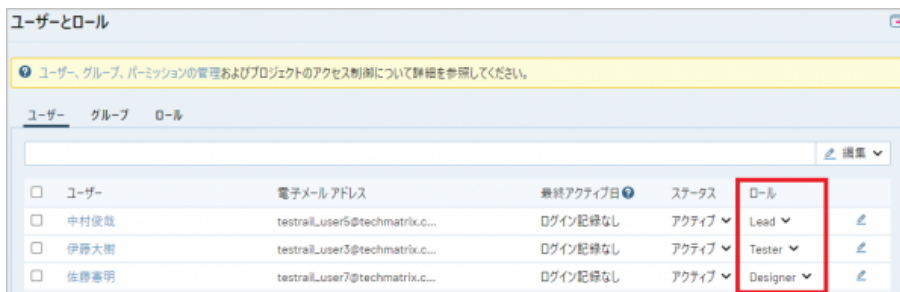
以下のいずれかを選択することができます。

- グローバルロール
- アクセスなし
- TestRail 上に存在するロール

グローバルロール

全てのユーザーがユーザー自身のロールでこのプロジェクトにアクセスすることができます。

次のユーザー一覧の画像を例にすると、中村さんは、グローバルロール を選択しているプロジェクトに Lead ロールの権限でアクセスでき、伊藤さんは Tester ロールの権限でアクセスできます。



アクセスなし

全てのユーザーはこのプロジェクトにアクセスすることができません。

アクセスするには、ユーザー毎またはグループでアクセス権を変更する必要があります。

TestRail 上に存在するロール

全てのユーザーが選択した ロール でこのプロジェクトにアクセスすることができます。

ロールの設定は、[管理] タブ > [ユーザーとロール] > [ロール] タブにあります。

注意

デフォルトアクセスの設定は、全てのユーザー、グループに反映されることに注意してください。

例えば、デフォルトアクセスで Read-only を選択した場合、ユーザー、グループ毎にアクセス権を設定しない限り、TestRail 上の全てのユーザーがこのプロジェクトを参照できることになります。

3-3-2. 特定のユーザーまたはグループにアクセス権を割り当てること

ユーザーまたはグループにこのプロジェクトへのアクセス権を個別に設定します。

ここで設定した値は、デフォルトアクセス で設定したアクセス権を上書きします。

プロジェクト アクセス 欠陥 参照

デフォルトアクセス*

グローバルロール

このプロジェクトのデフォルトアクセスを指定します。デフォルトアクセスは、下でユーザーまたはグループごとに上書きできます。 [詳細](#)

| ユーザー | グローバルロール | プロジェクトアクセス |
|--------------|----------|------------|
| 中村俊哉 | Lead | - |
| 伊藤大樹 | Lead | - |
| 佐藤憲明 | Lead | - |
| 加藤美穂 | Lead | - |
| 吉田翔太 (Admin) | Lead | - |
| 小林麻美 | Lead | - |
| 山本春香 | Lead | - |
| 渡辺浩二 | Lead | - |
| 田中次郎 | Lead | - |
| 鈴木孝 | Lead | - |
| 高橋啓介 | Lead | - |
| グループ | | プロジェクトアクセス |
| SampleGroup | | - |

ユーザー毎の設定

次の画面において、デフォルトアクセスで グローバルロール が選択されている場合を想定します。

1. 中村さんのグローバルロールは Lead ですので、プロジェクトアクセスを設定しない “-” の状態では、このプロジェクトに対して Lead のアクセス権を持ちます。
2. 中村さんのプロジェクトアクセスを Read-only にすると、中村さんはこのプロジェクトに対して Read-only のアクセス権を持つことができます。(中村さん自身のグローバルロールを上書き)

プロジェクト **アクセス** 欠陥 参照

デフォルトアクセス*

グローバルロール ▼

このプロジェクトのデフォルトアクセスを指定します。デフォルトアクセスは、下でユーザーまたはグループごとに上書きできます。 [詳細](#)

| ユーザー | グローバルロール | プロジェクトアクセス |
|--------------|----------|-------------|
| 中村俊哉 | Lead | Read-only ▼ |
| 伊藤大樹 | Lead | - ▼ |
| 佐藤憲明 | Lead | - ▼ |
| 加藤美穂 | Lead | - ▼ |
| 吉田翔太 (Admin) | Lead | - ▼ |
| 小林麻美 | Lead | - ▼ |
| 山本春香 | Lead | - ▼ |
| 渡辺浩二 | Lead | - ▼ |
| 田中次郎 | Lead | - ▼ |
| 鈴木孝 | Lead | - ▼ |
| 高橋啓介 | Lead | - ▼ |
| グループ | | プロジェクトアクセス |
| SampleGroup | | - ▼ |

グループ毎の設定

デフォルトアクセスで グローバルロール が選択されている場合を想定します。

伊藤さんは、SampleGroup グループに属しています。

グループの編集

名前*

SampleGroup

例: OA London, In-house または Client A

ユーザー

選択 [すべて](#) | なし

- 中村俊哉
- 伊藤大樹
- 佐藤憲明
- 加藤美穂
- 吉田翔太 (Admin)
- 小林麻美
- 山本春香
- 渡辺浩二
- 田中次郎
- 鈴木孝
- 高橋啓介

このグループに参加するユーザーを選択してください。

1. 伊藤さんのグローバルロールは Lead ですので、ユーザー/グループどちらかのプロジェクトアクセスを設定しない “二” の状態では、このプロジェクトに対して Lead のアクセス権を持ちます。
2. SampleGroup グループのプロジェクトアクセスを Read-only にすると、伊藤さんはこのプロジェクトに対して Read-only のアクセス権を持つことができます。(伊藤さん自身のグローバルロールを上書き)

プロジェクト アクセス 欠陥 参照

デフォルトアクセス*

グローバルロール

このプロジェクトのデフォルトアクセスを指定します。デフォルトアクセスは、下でユーザーまたはグループごとに上書きできます。 [詳細](#)

| ユーザー | グローバルロール | プロジェクトアクセス |
|--------------|----------|------------|
| 中村俊哉 | Lead | - ▼ |
| 伊藤大樹 | Lead | - ▼ |
| 佐藤憲明 | Lead | - ▼ |
| 加藤美穂 | Lead | - ▼ |
| 吉田翔太 (Admin) | Lead | - ▼ |
| 小林麻美 | Lead | - ▼ |
| 山本春香 | Lead | - ▼ |
| 渡辺清二 | Lead | - ▼ |
| 田中次郎 | Lead | - ▼ |
| 鈴木孝 | Lead | - ▼ |
| 高橋啓介 | Lead | - ▼ |

| グループ | プロジェクトアクセス |
|-------------|-------------|
| SampleGroup | Read-only ▼ |

ユーザーとグループの優先順位

ユーザーと所属するグループの両方でプロジェクトアクセスが設定されている場合は、以下の順番で優先されます。

1. (最優先) ユーザーのプロジェクトアクセス
2. グループのプロジェクトアクセス
3. デフォルトアクセス

デフォルトアクセスで グローバルロール が選択されている場合を想定します。

伊藤さんは、SampleGroup グループに属しています。

グループの編集

名前*

SampleGroup

例: OA London, In-house または Client A

ユーザー

選択すべてなし

- 中村俊哉
- 伊藤大樹
- 佐藤憲明
- 加藤美穂
- 吉田翔太 (Admin)
- 小林麻美
- 山本春香
- 渡辺浩二
- 田中次郎
- 鈴木孝
- 高橋啓介

このグループに参加するユーザーを選択してください。

伊藤さん自身のプロジェクトアクセスで アクセスなし、SampleGroup グループのプロジェクトアクセスで Read-only を選択します。

プロジェクト アクセス 欠陥 参照

デフォルトアクセス*

グローバルロール ▼

このプロジェクトのデフォルトアクセスを指定します。デフォルトアクセスは、下でユーザーまたはグループごとに上書きできます。 [詳細](#)

| ユーザー | グローバルロール | プロジェクトアクセス |
|--------------|----------|------------|
| 中村俊哉 | Lead | - ▼ |
| 伊藤大樹 | Lead | アクセスなし ▼ |
| 佐藤憲明 | Lead | - ▼ |
| 加藤美穂 | Lead | - ▼ |
| 吉田翔太 (Admin) | Lead | - ▼ |
| 小林麻美 | Lead | - ▼ |
| 山本春香 | Lead | - ▼ |
| 渡辺浩二 | Lead | - ▼ |
| 田中次郎 | Lead | - ▼ |
| 鈴木孝 | Lead | - ▼ |
| 高橋啓介 | Lead | - ▼ |

| グループ | プロジェクトアクセス |
|-------------|-------------|
| SampleGroup | Read-only ▼ |

伊藤さんのこのプロジェクトに対するアクセス権は アクセスなし になります。

3-4. ユースケース

3-4-1. グローバルにユーザーアクセス権を制限する

ユーザーのアクセス権を制限したい場合、あらかじめ TestRail に用意されているロールまたは、独自のロールを作成してユーザーに割り当てます。

ロールを使用すると、次のようなアクセス権の制御ができます。

- ユーザーがプロジェクトに対してテスト結果を追加できるが新しいケースを追加できないようにする ([Tester](#))
- ユーザーがプロジェクトに対していずれの変更もできないようにする ([Read-only](#))

3-4-2. プロジェクトごとに個別のアクセス権を設定する

プロジェクトごとにユーザーのアクセス権を変更したい場合は、プロジェクト設定で各ユーザーの固有ロールを選択して割り当てます。

1. あるユーザーがほとんどのプロジェクトで Designer ロールを使用する場合は、この Designer ロールをユーザーのロールとして割り当てます。([管理] > [ユーザーとロール] > [ユーザー] タブ > (ユーザーの) ロール)
2. このユーザーが特定のプロジェクトで Lead ロールを必要とするなら、そのプロジェクトの [アクセス] ページでユーザーのプロジェクトアクセスで Lead ロールを選択します。([管理] > [プロジェクト]、[プロジェクト] > アクセス タブ)

3-4-3. プロジェクトメンバー以外のすべてのユーザーに対してプロジェクトを非表示にする

プロジェクトにアクセスさせたくないユーザーが多い場合は、デフォルトでプロジェクトを非表示にして、プロジェクトメンバーだけにアクセスを許可します。

1. プロジェクトのデフォルトアクセスとして [アクセスなし](#) を設定します。
2. プロジェクトメンバーやグループのプロジェクトアクセスにロールを割り当てます。

3-4-4. プロジェクトを読み取り専用にする

もう作業をしていないが TestRail に保存しておきたいプロジェクトは読み取り専用にすることができます。

- プロジェクトのデフォルトアクセスで [Read-only](#) ロールを設定します。

特定のユーザーに対してこのロールを上書きしない限り、すべてのユーザーは読み取り専用でこのプロジェクトにアクセスできます。

3-5. リンク

- 前の章 : [2. ユーザーとグループ](#)
- 次の章 : [4. カスタマイズ](#)
- 関連マニュアル : [TestRail 入門](#)
- 関連マニュアル : [ユーザーとセキュリティの管理](#)

4. カスタマイズ

本章では、カスタマイズについて説明します。

TestRail ではテストケースとテスト結果の入力用にカスタムフィールドを追加したり、優先度やステータスをカスタマイズすることができます。

4-1. フィールド

フィールドの追加/編集は、[管理] > [カスタマイズ] でおこないます。

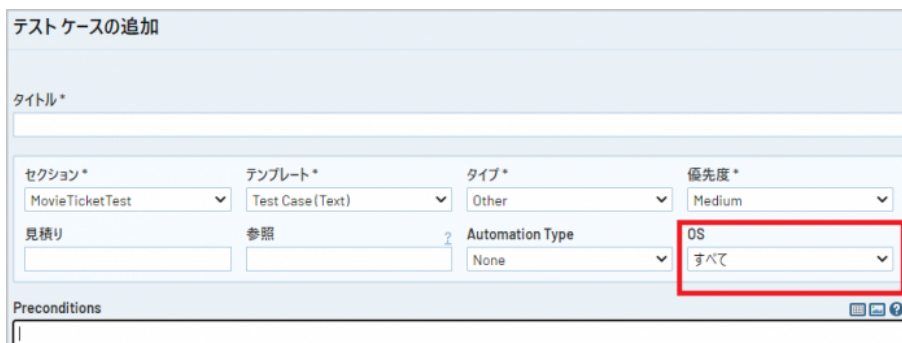
カスタムフィールドはテストケースとテスト結果に追加することができます。

- テストケース：テストケースの入力および表示用にカスタムフィールドを追加
- テスト結果：テスト結果の入力および表示用にカスタムフィールドを追加

カスタマイズしたフィールドは、TestRail 上の全てのプロジェクトまたは特定のプロジェクトで利用できます。

4-1-1. ケースフィールド

テストケースの追加、編集画面のフィールドをカスタマイズできます。



テストケースの追加

タイトル*

セクション* テンプレート* タイプ* 優先度*

MovieTicketTest Test Case (Text) Other Medium

見積り 参照 Automation Type OS

None すべて

Preconditions

※赤枠のフィールドがカスタムフィールドとして追加されたフィールド。それ以外はデフォルトのフィールドです。

4-1-2. 結果フィールド

結果の追加画面のフィールドをカスタマイズできます。

※赤枠のフィールドがカスタムフィールドとして追加されたフィールド。それ以外はデフォルトのフィールドです。

4-1-3. フィールドの追加方法

1. ケースフィールド、または結果フィールドの フィールドの追加 ボタンを押下します。
2. 入力画面に沿って設定します。
 - 選択可能な タイプ については カスタムフィールドの設定 > 基本 ご参照ください。
3. プロジェクトとオプションの追加 については カスタムフィールドの設定 > プロジェクトの割り当て をご参照ください。
4. フィールドの追加 ボタンを押下してフィールドを追加します。

4-2. テンプレート

テンプレートはテストケースの追加、編集画面に表示される ケースフィールド と結果の追加画面に表示される 結果フィールド の構成を管理するテンプレートです。

標準で3つのテンプレートが用意されています。

- Test Case (text)
- Test Case (Steps)
- Exploratory Session

テンプレートの追加 では、テンプレート名、テンプレートを使うプロジェクトなどテンプレートの定義だけを設定することができます。

テンプレートでどのフィールドを利用するかは、ケースフィールド および 結果フィールド の フィールドは次のテンプレートにだけ適用される で設定します。

フィールドはすべてのテンプレートに適用される
 すべてのケースに(すべてのテンプレートのケース、またテンプレートを使用しないケースにも)このフィールドを使用するには、このオプションをオンにします。

フィールドは次のテンプレートにだけ適用される
 このフィールドを適用するテンプレートを選択することもできます。特定のテンプレートタイプだけにフィールドを制限する場合に便利です。

選択 [すべてなし](#)

Exploratory Session
 Test Case (Steps)
 Test Case (Text)

4-3. ケースタイプ

ケースタイプは、テストケースの タイプ フィールドの項目をカスタマイズできます。

テストケースの追加

MovieTicketTest

タイトル*

セクション* MovieTicketTest テンプレート* Test Case (Text) **タイプ*** Other 優先度* Medium

見積り 参照

Preconditions

The preconditions of this test case. Reference other test cases with [C#](e.g. [C17]).

4-4. 優先度

優先度は、テストケースの 優先度 フィールドの項目をカスタマイズできます。

テストケースの追加

MovieTicketTest

タイトル*

セクション* テンプレート* タイプ* 優先度*

MovieTicketTest Test Case (Text) Other Medium

見積り 参照 Automation Type

None Medium

Preconditions

Low

4-5. ステータス

ステータスは、テスト結果の ステータス をカスタマイズできます。

結果の追加

ステータス*

Passed

Passed

Blocked

Retest

Failed

新しいステータスを追加する場合は、名前が Unnamed_N のステータスを編集してください。

4-5-1. このステータスは最終ステータスについて

このステータスを最終ステータス (テストが完了して、再テストは不要な状態) とするかどうかを設定します。

TestRail のステータスは、テストの進捗管理のデータとして利用されており、マイルストーンやテストランの 進捗 の計算に影響します。



デフォルトで用意されているステータスは、以下のステータスが最終ステータスです。

- Passed
- Blocked
- Failed

それ以外の Untested、Retest は最終ステータスではありません。

4-5-2. ステータスはアクティブについて

結果の追加画面の ステータス プルダウンに表示されるようにするには、ステータスが アクティブ である必要があります。

不要になったステータスは非アクティブに変更してください。

4-6. UI スクリプト

TestRail の UI (ユーザーインターフェイス) をカスタマイズして画面の一部を強調したり、不要なボタンを非表示にすることができます。

UI スクリプトの追加には、基本的な HTML、CSS、および JavaScript の知識が必要です。

詳細は、[オンラインマニュアル](#) の以下の章をご確認ください。(サンプルコードも掲載されています。)

- UI スクリプト

4-7. リンク

- 前の章：[3. プロジェクト作成](#)
- 次の章：[5. テストケースのインポート](#)
- 関連マニュアル：[カスタム フィールドの設定](#)

5. テストケースのインポート

本章では、テストケースのインポートについて記載します。これまで外部ファイルで管理していたテストケースを TestRail で管理するには、テストケースをインポートする必要があります。

インポート可能なフォーマットは以下の通りです。

- **XML** : TestRail 固有のフォーマットに対応した XML ファイルからテストケースをインポートできます。
 - 「既存テストケースの更新 (テストケースIDで紐づけ)」、「新規テストケースの追加」いずれかを選択します。
 - TestRail のテストケースを外部で編集後、再インポートする場合に適しています。
- **CSV** : CSV ファイルに定義されたテストケースを TestRail の項目とマッピングしてインポートできます。
 - インポートするテストケースは新規テストケースとして追加されます。(既存のテストケースの更新は出来ません。)
 - Excel 等で管理されているテストケースを TestRail にインポートする場合に使用します。

5-1. テストケーステンプレートを決定する

TestRail にはテストケースの内容によって使い分けられることができる 3 つのテストケーステンプレートを用意しています。

テストケースをインポートする前に、既存のテストケースをどのテンプレートでインポートするかを決める必要があります。

テンプレートは 1 ケース毎に変更できますが、CSV インポートでは 1 度に 1 つのテンプレートのテストケースしかインポートできません。異なるテンプレートのテストケースは分けてインポートしてください。

5-1-1. Test Case (Text) テンプレート

Test Case (Text) は 1 つの前提条件、テスト手順、期待する結果、および実際の結果を入力する場合に使用します。

テストケースの追加

タイトル*

セクション* テンプレート* タイプ* 優先度*

Prerequisites Test Case (Text) Other Medium

見積り 参照 Automation Type

None

Preconditions

The preconditions of this test case. Reference other test cases with [C#](e.g. [C17]).

Steps

The required steps to execute the test case.

Expected Result

The expected result after executing the test case.

✓ テストケースの追加 ✓ 連続して追加 × キャンセル

5-1-2. Test Case (Steps) テンプレート

Test Case (Steps) は 1 つのテストケース内で複数の手順、手順毎に期待される結果、および結果の入力をする場合に使用します。

結果を登録する時は、各手順毎の結果を登録することができます。

テストケースの追加

タイトル*

セクション* テンプレート* タイプ* 優先度*

Prerequisites Test Case (Steps) Other Medium

見積り 参照 Automation Type

None

Preconditions

The preconditions of this test case. Reference other test cases with [C#] (e.g. [C17]).

Steps

| | | | |
|---|-------|---------|--|
| 1 | 手順の説明 | 期待される結果 | |
| 2 | 手順の説明 | 期待される結果 | |
| 3 | 手順の説明 | 期待される結果 | |

✓ テストケースの追加 ✓ 連続して追加 ✕ キャンセル

5-1-3. Exploratory Session テンプレート

探索的テストの実施に合わせてミッションとゴールを登録できます。探索的テストを実施する場合に使用します。

テストケースの追加

タイトル*

セクション* テンプレート* タイプ* 優先度*

Prerequisites Exploratory Session Other Medium

見積り 参照 Automation Type

None

Mission

A high-level overview of what to test and which areas to cover, usually just 1-2 sentences.

Goals

A detailed list of goals to cover as part of the exploratory sessions.

✓ テストケースの追加 ✓ 連続して追加 ✕ キャンセル

5-1-4. カスタムテンプレート

TestRail に用意されている 3 つのテンプレートとは別に、ユーザー独自のテストケーステンプレートを作成することも可能です。

詳細は、[カスタマイズ](#) の [テンプレート](#) をご確認ください。

5-2. 既存のテスト項目から不足しているフィールド、項目値を洗い出す

TestRail 上に既存のテストケースの項目と対応するフィールドが存在しない場合は、インポート操作の前にカスタムフィールドを用意してください。

テストケースの [ケースタイプ](#) と [優先度](#) の各フィールドは、いくつかの項目値が TestRail にあらかじめ用意されています。インポートする既存のテストケースの項目値と合わない場合は、項目値をカスタマイズしてください。

カスタムフィールドの追加、ケースタイプと優先度の変更については、[カスタマイズ](#) をご確認ください。

5-3. テストケースインポート (CSV)

Excel ファイル、Google Docs/Spreadsheets ファイルで管理しているテストケースを TestRail にインポートするには、[CSV インポート](#) を利用します。

なお、日本語文字列を含むテストケースをインポートする場合は、CSV ファイルのエンコーディングを [UTF-8](#) としてください。Shift-JIS の場合、インポートする文字列が文字化けします。

5-3-1. Excel ファイルを CSV 形式に変更する

Excel の [\[ファイル\]](#) > [\[名前を付けて保存\]](#) でファイルの種類を [\[CSV \(カンマ区切り\) \(*.csv\)\]](#) を指定して保存します。

これにより、テストケースを CSV ファイルとして保存し、TestRail にインポートできます。

TestRail がテストケースを認識できるように、Excel シートのレイアウトを単純化する必要がある場合があります。テストケースごとに 1 行または複数行の単純なレイアウトを使用することをお勧めします。

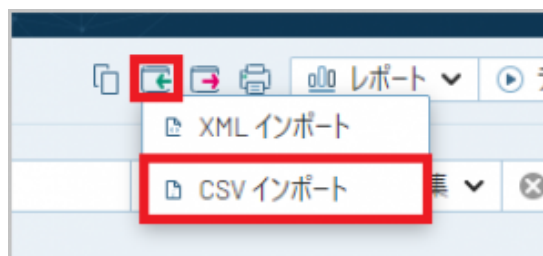
5-3-2. Google Docs/Spreadsheets ファイルを CSV 形式に変更する

Google Docs/Spreadsheets の [\[File\]](#) > [\[Download\]](#) をクリックし、[.csv](#) を選択すると、データを CSV ファイルにエクスポートし、TestRail にインポートできます。

5-3-3. テストケースをインポートする

テストケースをインポートするプロジェクトの [テストケース](#) または [テストスイートとケース](#) タブを開きます。

画面上部のアイコンが並んだところから、[CSV インポート](#) を選択します。



ダイアログ画面で設定を進めていきます。

1/4 画面

インポートするファイル、インポート時のオプションを設定します。

ファイル (10MBまで)

| 項目 | 概要 |
|---------|--|
| ファイルを選択 | TestRail にインポートする CSV ファイルを選択します。 ファイルサイズは最大 10MB です。10 MB を超えるサイズのファイルをインポートするには、ファイルを分割する必要があります。 |

フォーマットとマッピング

| 項目 | 概要 |
|-------------------|--|
| 新規マッピングの設定 | CSV ファイルと TestRail 項目を手動でマッピングします。 初めてインポート機能を利用する場合や新しいマッピング設定を利用する場合はこちらを選択してください。 |
| 設定ファイルからマッピングをロード | 事前に、設定ファイルに保存したマッピング設定を使って、CSV ファイルと TestRail 項目をマッピングします。 設定ファイルは、初回のインポート操作後にダウンロードすることができます。 |

詳細オプション

| 項目 | 概要 |
|--------------|--|
| インポート先 | テスト ケースを追加するベースのセクションを選択します。CSV ファイルからインポートされた新しいセクションおよびケースは、このセクションの下に追加されます。 |
| ファイルエンコーディング | CSV ファイルのファイル エンコーディングです。 日本語文字列を含むテストケースをインポートする場合は、UTF-8 エンコーディングを選択します。 |
| CSV 区切り文字 | CSV の列を区切る区切り文字を選択します。 |
| 開始行 | TestRail が CSV ファイル内のテストケースの検索を開始する行のインデックスを指定します (1 から開始)。これは、CSV ファイルの先頭の行を無視またはスキップするために使用できます。 |
| ヘッダー行 | 上で設定した「開始行」がヘッダー行かどうかを示します。ヘッダー行は CSV ファイルを説明する列名を含みます。 |
| テンプレート | インポートされたテスト ケースに使用するケース テンプレートを選択します。 |

2/4 画面

CSV ファイルの列名と TestRail のフィールドをマッピングします。

CSV からインポート
✕

列と行のレイアウトをマッピング
2/4

TestRail は CSV ファイルを解析し、次の CSV 列を検出しました。行のレイアウト (単一行/複数行) を設定し、CSV 列を TestRail のフィールドにマッピングしてください。

行レイアウト

テストケースは単一行を使用する
 テストケースは複数行を使用する [詳細](#)

新規テストケースの検出に使用する列: タイトル ▼

| CSV 列 | | TestRail フィールド |
|---------|---|--|
| タイトル | — | ▼ |
| 重要度 | — | ▼ |
| 種別 | — | ▼ |
| 事前準備 | — | ▼ |
| テスト手順 | — | ▼ |
| 結果の確認方法 | — | ▼ |

タイトルがないテストケース/レコードを無視する (例: ファイル末尾の空のレコード)

← 前へ
次へ →
✕ キャンセル

行レイアウト

| 項目 | 概要 |
|-------------------|--|
| テストケースは単一行を使用する | 1/4 画面においてテストケースのテンプレートを Test Case (Text) および Exploratory Session テンプレートを選擇して、CSV ファイル内のテストケースが 1 行 1 ケースの場合はこちらを選擇します。 |
| テストケースは複数行を使用する | 1/4 画面においてテストケースのテンプレートを Test Case (Text) および Exploratory Session テンプレートを選擇して、CSV ファイル内のテストケースが複数行で 1 ケースの場合 (テスト手順が複数行で定義されているなど) はこちらを選擇します。 |
| | 1/4 画面においてテストケースのテンプレートを Test Case (Steps) を選擇している場合はこちらを選擇します。 |
| 新規テストケースの検出に使用する列 | 新しいテストケースの開始を検出する列 (たとえば、テスト ケースごとに一意の <u>ID</u> 列または <u>名前/タイトル</u> 列) を選擇してください。 |

マッピング

| 項目 | 概要 |
|----------------|---|
| CSV 列 | インポートする CSV ファイルのヘッダ行から取得した項目名が表示されます。 |
| TestRail フィールド | CSV ファイルの項目に合うように、右で TestRail のフィールドを選擇します。 |

タイトルがないテストケース/レコードを無視する (例：ファイル末尾の空のレコード)

- チェックボックスをチェックすると、CSV 内で「タイトル」が空値の行は、テストケースとして認識せず、スキップします。これにより、CSV ファイルの末尾の空白行を無視することができます。
- 行レイアウトの 新規テストケースの検出に使用する列： で “タイトル” を選擇している場合、テストケースが正しくインポートできなくなります。新規テストケースの検出に使用する列： の選擇値を “タイトル” 以外にするか、このチェックボックスを外してください。

3/4画面

2/4画面においてマッピングした TestRail のフィールドが、プルダウン、リスト、ラジオボタンなどの、値を選擇するタイプのフィールドだった場合、CSV の値と、TestRail のフィールド値をマッピングします。

- マッピングが必要な項目分、設定を行います。
- TestRail 側に適した値が無い場合は、ケースフィールドをカスタマイズしてください。
- 例) 下の画面では、CSV ファイルの 重要度 フィールドと、TestRail の 優先度 フィールドの値をそれぞれマッピングしています。

CSV からインポート
✕

値のマッピング 3/4

次のステップでは、CSV の値を TestRail にマッピングします。たとえば、CSV ファイルに *Medium* という優先度を表す値がある場合、このステップで、値を TestRail の優先度 *Low* または *Normal* にマッピングできます。

タイトル → タイトル

CSV の値から HTML タグを除去

重要度 → 優先度

| | | | |
|---|---|--------|---|
| 1 | → | Low | ▼ |
| 2 | → | Medium | ▼ |
| 3 | → | High | ▼ |

種別 → タイプ

| | | | |
|---------|---|-------------|---|
| パフォーマンス | → | Performance | ▼ |
| マニュアル記載 | → | ▼ | ▼ |
| 互換性 | → | Acceptance | ▼ |

Accessibility
 Automated
 Compatibility
 Destructive
 Functional
 Other
 Performance
 Regression
 Security
 Smoke & Sanity
 Usability

← 前へ
次へ →
✕ キャンセル

4/4画面

インポートするテストケースのプレビューを確認します。最大で 5 件のテストケースプレビューが表示されます。

- プレビューで表示される内容が意図した内容ではない場合、前へ ボタンで前の設定画面に戻り、設定を見直してください。
- インポートされるテストケース数が、正しいことを確認してください。

CSV からインポート
✕

インポートのプレビュー 4/4

TestRail は CSV ファイルに 4 個のテストケースを検出しました。先頭の数個のケースを確認してから CSV ファイルをインポートしてください。[前へ] ボタンで戻り、ファイル設定および列または値のマッピングを変更することができます。

ケース 1: (テストケース追加) 組み込みの印刷プレビュードライバを使用して数式のレンダリングを確認する

| | |
|-----------------|--|
| テンプレート | → Test Case (Text) |
| タイプ | → Performance |
| 優先度 | → Low |
| Automation Type | → None (デフォルト) |
| Preconditions | → パフォーマンス計測用マシン (要予約) それ以外の準備物は C29 を参照。 |
| Steps | → <ol style="list-style-type: none"> 1. プロジェクト選択画面 : Demoを開く 2. 耐久テスト用テストデータを選択する 3. 画面表示が正しく行われるかを確認する |
| Expected Result | → <ul style="list-style-type: none"> • 過去の耐久テスト結果と比較し、誤差範囲(5%)以内であること。 • 誤差範囲を超える場合は開発担当者へ確認を依頼。 |

← 前へ
+ インポート
✕ キャンセル

5-3-4. Test Case(Steps) テンプレートのテストをインポートする場合の注意事項

Test Case(Steps) テンプレートにテストケースをインポートするには、一つのテストケースに対して“手順”と“期待される結果”を複数行に分割して用意してください。

| | A | B | C |
|---|-----------|--------------------|-----------|
| 1 | タイトル | 手順 | 期待される結果 |
| 2 | 複数手順のテスト① | 1. ファイル選択画面：AAAを開く | 1. AAAが開く |
| 3 | | 2. ファイル選択画面：BBBを開く | 2. BBBが開く |
| 4 | | 3. ファイル選択画面：CCCを開く | 3. CCCが開く |
| 5 | 複数手順のテスト② | 1. 選択画面：AAAを開く | 1. AAAが開く |
| 6 | | 2. 選択画面：BBBを開く | 2. BBBが開く |
| 7 | | 3. 選択画面：CCCを開く | 3. CCCが開く |

C2811 複数手順のテスト①

| タイプ | 優先度 | 見積り | 参照 |
|-------|--------|-----|----|
| Other | Medium | なし | なし |

Preconditions

○○データをAAにインポートする

Steps

| | | |
|---|-----------------|-------------------|
| 1 | ファイル選択画面：AAAを開く | 期待される結果 AAAが開く |
| 2 | ファイル選択画面：BBBを開く | 期待される結果 BBBが開く |
| 3 | ファイル選択画面：CCCを開く | 期待される結果 CCCが開く |

インポート操作時に以下の点にご注意ください。

ファイルおよび設定のロード (1/4 画面)

- “テンプレート” で「Test Case(Steps)」を選択する

列と行のレイアウトをマッピング (2/4 画面)

CSVからインポート

列と行のレイアウトをマッピング 2/4

TestRail は CSV ファイルを解析し、次の CSV 列を検出しました。行のレイアウト (単一行/複数行) を設定し、CSV 列を TestRail のフィールドにマッピングしてください。

行レイアウト

テストケースは単一行を使用する

テストケースは複数行を使用する **詳細**

新規テストケースの検出に使用する列: タイトル

| CSV 列 | TestRail フィールド |
|---------|----------------|
| タイトル | ▼ |
| 重要度 | ▼ |
| 種別 | ▼ |
| 事前準備 | ▼ |
| テスト手順 | ▼ |
| 結果の確認方法 | ▼ |

タイトルがないテストケース/レコードを無視する (例: ファイル末尾の空のレコード)

← 前へ 次へ → × キャンセル

- “行レイアウト” で「テスト ケースは複数行を使用する」を選択する
- “新規テスト ケースの検出に使用する列:” で次のテストケースの行であることを判別するための列を選択する
 - 上の CSV ファイルの画像では「タイトル」を選択することで、2～4行目が1テストケース目、5～7行目が2テストケース目と判断されます。
- “タイトルがないテスト ケース/レコードを無視する (例: ファイル末尾の空のレコード)” チェックボックスを OFF にする (「タイトル」を次のテストケースの判別に使っていない場合は OFF にしなくても結構です。)

5-4. テストケースインポート (XML)

TestRail の XML フォーマットに合わせたテストケースを XMLインポート でインポートすることができます。

注意：

- ① TestRail のテストケースに合ったフォーマットの XML ファイルだけをインポートすることができます。TestRail とは異なるツールから出力した XML ファイルなど、TestRail のテストケースフォーマットと一致していない場合はインポートすることはできません。CSV インポートのご利用を検討してください。
- ② TestRail 6.3.1.1008 には、以下の既知の問題がございます。ご利用のバージョンが TestRail 6.3.1.1008 である場合、本章で示す XML フォーマットのテンプレートを利用しても、テストケースがインポートできない場合があります。

[XML ファイルを利用した新規テスト ケースの追加時にエラーが発生する](#)

5-4-1. XML フォーマット例

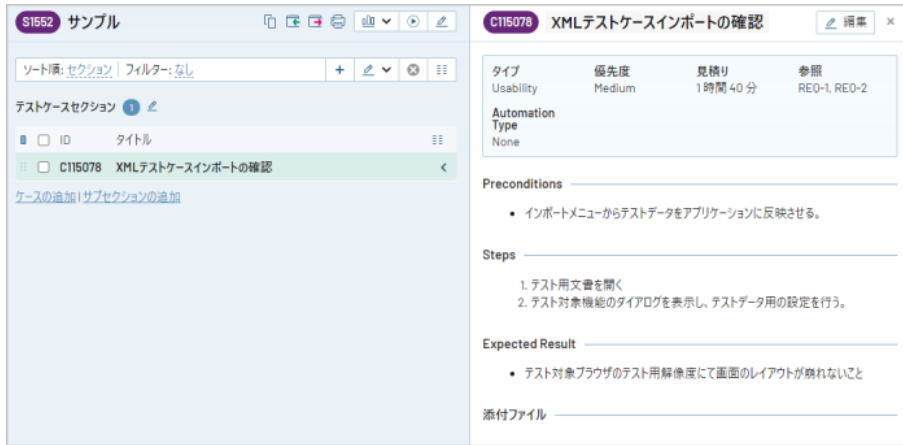
TestRail にインポート可能な XML のフォーマットはテストケーステンプレートごとに異なります。

デフォルトのテストケーステンプレートごとの XML フォーマット例です。

カスタムフィールドの利用状況によってはインポートエラーになる場合があります。後述する [カスタムフィールドの取扱いについて](#) をご確認ください。

TestCase (Text)

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<sections>
  <section>
    <!-- テストケースをインポートするセクションの名前 -->
    <name>テストケースセクション</name>
    <cases>
      <case>
        <!-- テストケース タイトル -->
        <title>XMLテストケースインポートの確認</title>
        <!-- テストケース テンプレート -->
        <template>Test Case (Text)</template>
        <!-- テストケース タイプ -->
        <type>Usability</type>
        <!-- テストケース 優先度 -->
        <priority>Medium</priority>
        <!-- テストケース 見積もり -->
        <estimate>6000</estimate>
        <!-- テストケース 参照 -->
        <references>REQ-1, REQ-2</references>
        <custom>
          <!-- テストケース Automation Type -->
          <automation_type>
            <id>0</id>
            <value> None</value>
          </automation_type>
          <!-- テストケース Preconditions -->
          <preconds>* インポートメニューからテストデータをアプリケーションに反映させる。</preconds>
          <!-- テストケース Steps -->
          <steps>1. テスト用文書を開く
2. テスト対象機能のダイアログを表示し、テストデータ用の設定を行う。</steps>
          <!-- テストケース Expected Result -->
          <expected>* テスト対象ブラウザのテスト用解像度にて画面のレイアウトが崩れないこと</expected>
        </custom>
      </case>
    </cases>
  </section>
</sections>
```



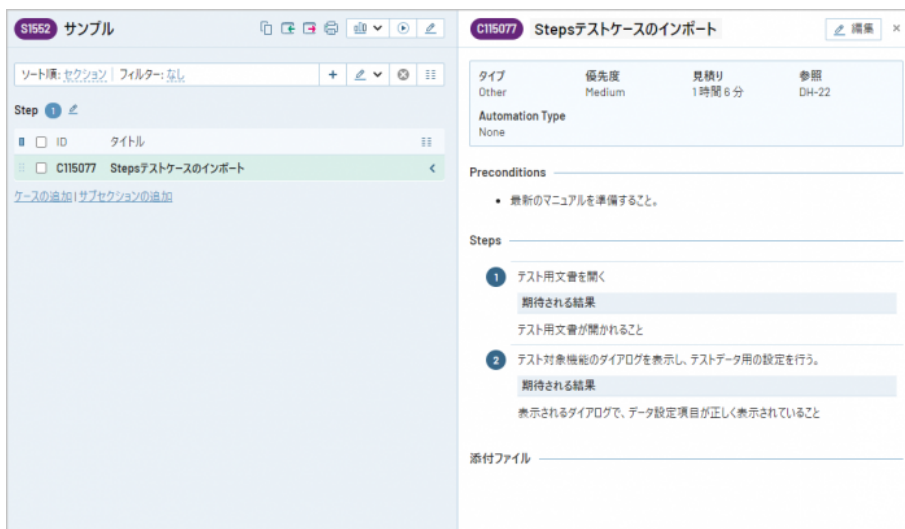
TestCase (Steps)

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<sections>
  <section>
    <!-- テストケースをインポートするセクションの名前 -->
    <name>Step</name>
    <cases>
      <case>
        <id>C115076</id>
        <!-- テストケース タイトル -->
        <title>Stepsテストケースのインポート</title>
        <!-- テストケース テンプレート -->
        <template>Test Case (Steps)</template>
        <!-- テストケース タイプ -->
        <type>Other</type>
        <!-- テストケース 優先度 -->
        <priority>Medium</priority>
        <!-- テストケース 見積もり -->
        <estimate>4000</estimate>
        <!-- テストケース 参照 -->
        <references>DH-22</references>
        <custom>
          <!-- テストケース Automation Type -->
          <automation_type>
            <id>0</id>
            <value>None</value>
          </automation_type>
          <!-- テストケース Preconditions -->
          <preconds>*最新のマニュアルを準備すること。</preconds>
          <!-- テストケース 複数の手順と期待する結果 -->
          <steps_separated>
            <!-- 1 件目 -->
            <step>
              <index>1</index>
              <content>テスト用文書を開く</content>
            </step>
          </steps_separated>
        </custom>
      </case>
    </cases>
  </section>
</sections>
```

```

<expected>テスト用文書が開かれること</expected>
</step>
<!-- 2 件目 -->
<step>
  <index>2</index>
  <content>テスト対象機能のダイアログを表示し、テストデータ用の設定を行う。</content>
  <expected>表示されるダイアログで、データ設定項目が正しく表示されていること</expected>
</step>
</steps_separated>
</custom>
</case>
</cases>
</section>
</sections>

```



Exploratory Session

```

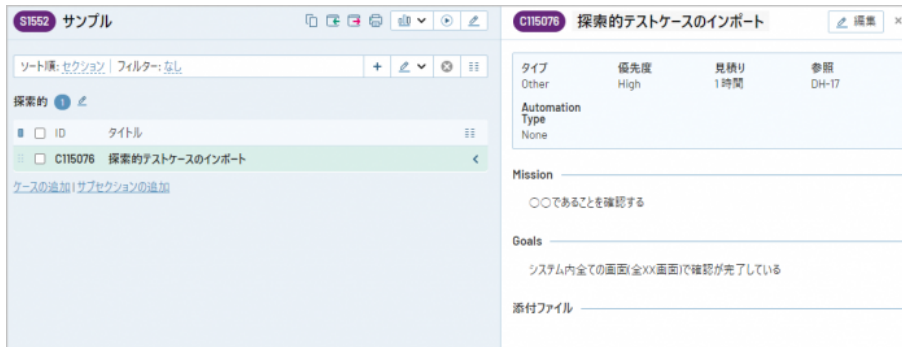
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<sections>
  <section>
    <!-- テストケースをインポートするセクションの名前 -->
    <name>探索的</name>
  <cases>
    <case>
      <!-- テストケース タイトル -->
      <title>探索的テストケースのインポート</title>
      <!-- テストケース テンプレート -->
      <template>Exploratory Session</template>
      <!-- テストケース タイプ -->
      <type>Other</type>
      <!-- テストケース 優先度 -->
      <priority>High</priority>
      <!-- テストケース 見積もり -->

```

```

<estimate>3600</estimate>
<!-- テストケース 参照 -->
<references>DH-17</references>
<custom>
  <!-- テストケース Automation Type -->
  <automation_type>
    <id>0</id>
    <value> None</value>
  </automation_type>
  <!-- テストケース Mission -->
  <mission>〇〇であることを確認する</mission>
  <!-- テストケース Goals -->
  <goals>システム内全ての画面(全XX画面)で確認が完了している</goals>
</custom>
</case>
</cases>
</section>
</sections>

```



5-4-2. カスタムフィールドの取扱いについて

カスタム フィールドは、`custom` タグの下にグループ化され、XML 識別子/タグとして ([管理] > [カスタマイズ] で設定した) システム名を使用します。

インポート形式と動作の詳細は、実際のカスタムフィールドのタイプによって異なります。

次の表は、さまざまなカスタムフィールドタイプのインポート形式の一覧です。

| タイプ | サンプル値 | 説明 |
|--------------|--|---|
| Checkbox | true | "true" または "false" (引用符なし) |
| Date | 2010-07-01 | yyyy-mm-dd 形式の有効な XML 日付文字列 |
| Dropdown | <id>5</id> | <id> タグで囲まれた値の ID (管理エリアのカスタム フィールド オプションで設定されている) |
| Integer | 1022 | 単純な整数 |
| Milestone | <id>2</id> | <id> タグで囲まれたマイルストーンの ID |
| Multi-select | <item> <id>1</id> </item> <item> <id>2</id> </item> | <item> レコードのリスト。それぞれ独自の ID を持つ (Dropdown 値のリストのように) |

| | | |
|-------------|---|--|
| Steps | <pre><step> <index>1</index> <content>Step 1<content> <expected>Result 1<expected> </step> <step> <index>2</index> <content>Step 2<content> </step></pre> | <pre><step></pre> <p>レコードのリスト。それぞれ独自のインデックス、コンテンツ、およびオプションとして期待される結果を持つ。</p> |
| String/Text | Foobar | 単純な文字列 |
| URL (Link) | http://google.com/ | 文字列としての単純な URL |
| User | <id>3</id> | <id> タグで囲まれたユーザーの ID |

ヒント

インポート機能とエクスポート機能は同じファイル形式を使用しています。

ご利用環境でカスタムフィールドを利用しているなど、XML フォーマットが複雑な場合は、既存のテストスイートのエクスポート機能を利用して XML フォーマットを確認したり、エクスポートしたファイルに、テストケースを定義すると便利です。

※インポートする時、TestRail に元々存在していたテストケースを再追加しないようご注意ください。

5-5. リンク

- 前の章 : [4. カスタマイズ](#)
- 次の章 : [6. 高度な設定](#)
- 関連マニュアル : [カスタム フィールドの設定](#)
- 関連マニュアル : [テスト ケースとセクションのインポート \(Excel/CSV\)](#)
- 関連マニュアル : [テスト ケースとセクションのインポート \(XML\)](#)

6. 高度な設定

本章では、TestRail をより効果的に利用していただくための設定について説明します。

6-1. TestLink からの移行

TestLink から TestRail への移行用のスクリプトを用意しています。

スクリプトを利用することで、TestLink からエクスポートした XML ファイル TestRail の XML インポートファイル形式に変換できます。

詳細は [移行 : TestLink](#) をご確認ください。

6-2. 課題/要件管理ツール連携

TestRail と課題/要件管理ツールを統合すると次のことができるようになります。

- 課題/要件管理ツール共通
 - TestRail 上から統合したツールのチケット画面を開く
 - 要件や課題チケットをテストケース/テスト結果/テストランと関連付けている場合に、TestRail からチケット画面に遷移することができます。
 - TestRail 上から統合したツールの新規チケット登録画面を開く
 - TestRail のテストケース/テスト結果/テストランから要件や課題チケットの新規登録画面に遷移し、チケットを登録することができます。
 - TestRail 上から統合したツールのチケット情報を閲覧する
 - 要件や課題チケットをテストケース/テスト結果/テストランと関連付けている場合に、TestRail から移動せずにチケット情報を確認することができます。
- 課題管理ツール
 - TestRail 上から統合したツールの新規チケットを登録する
 - TestRail のテスト結果から課題管理ツールへ移動せずに新規課題チケットを登録することができます。

6-2-1. 欠陥 - 課題管理ツール連携

欠陥機能を利用して TestRail と課題管理ツールを連携すると、課題管理ツールに保存されたバグや課題と TestRail のテストおよびテスト結果をリンクすることができます。

欠陥機能では以下の 2 つをサポートしています。

- 欠陥 URL
- 欠陥プラグイン

欠陥 URL

欠陥 URL を使用すると、以下のことができるようになります。

- TestRail から課題管理ツール上の、新規課題/チケット作成画面に遷移して新しい課題/チケットを作成する
- TestRail から課題管理ツール上の 課題/チケットページに遷移する

欠陥 URL は [管理] > [統合] > [欠陥] タブ で設定することができます。

欠陥表示 URL

課題管理ツールの課題/チケットを表示するための URL アドレスです。

テスト結果の 欠陥 フィールドに課題管理ツールの課題/チケットの ID を登録しておくと、TestRail から画面遷移することができます。

欠陥表示 URL に登録する URL の形式はご利用の課題管理ツールによって異なります。TestRail と統合可能なツールと、そのツールの詳しい設定方法については、[TestRail の統合 ツールごとの手順](#) をご確認ください。

動作例

- テスト結果の欠陥フィールドに課題/チケットの ID を設定 (ここでは 123 を指定)

- 入力した ID がリンクになります。



- リンクをクリックすると、課題管理ツール（ここでは Redmine）の課題/チケットに遷移します。



欠陥追加 URL

課題管理ツールに新しい課題/チケットを追加する画面を表示するための URL アドレスです。

この URL を使うと、テスト結果の登録画面から課題管理ツールの新規課題/チケット追加画面に遷移することができます。

欠陥追加 URL に登録する URL の形式は、ご利用の課題管理ツールによって異なります。TestRail と統合可能なツールと、そのツールの詳しい設定方法については、[TestRail の統合 ツールごとの手順](#) をご確認ください。

動作例

- 「結果の追加」画面において欠陥フィールド横の 追加 リンクをクリックします。

- 課題管理ツール (ここでは Redmine) の新規課題/チケット作成画面が起動します。

- 課題/チケットを作成して、課題/チケット ID を取得します。

Redmineプラグインの開発(LGC)

検索:

概要 活動 ロードマップ チケット **カンバン** バックログ 作業時間 ガントチャート 文書 Wiki ファイル EVH

✓ チケット #2478 が作成されました。

機能 #2478 [編集](#) [時間を記録](#) [ウォッチ](#) [チケット関連図](#) [コピー](#) [削除](#)

水 組み込みの印刷プレビュードライバでエラー表示
水口 票 が1分以内に追加。

| | | | |
|----------|----|-------|------------|
| ステータス: | 新規 | 開始日: | 2020/12/23 |
| 優先度: | 通常 | 期日: | |
| 担当者: | - | 実開始日: | |
| カテゴリ: | - | 実終了日: | |
| 対象バージョン: | - | 進捗率: | 0% |
| | | 予定工数: | |

ポイント:
▼ カテゴリ2

コメント: 作業量: 作業量: 作業量:

説明 [引用](#)

画面表示が不正

チケットセットから子チケット作成 [追加](#)

子チケット [追加](#)

関連するチケット [追加](#)

[編集](#) [時間を記録](#) [ウォッチ](#) [チケット関連図](#) [コピー](#) [削除](#)

他の形式にエクスポート: Atom | PDF

- 取得した ID を TestRail の「テスト結果の追加」画面の 欠陥 フィールドに登録します。(自動で登録されないため、手動で登録する必要があります。)

結果の追加

ステータス*
Failed
テストステータスを設定します (Passed、Failed など)。

コメント
テスト結果の説明です。
添付ファイルはありません。
ファイルを添付するには、ここにドロップするか、クリックして参照します。

アサイン
他のチームメンバーに割り当てます。

バージョン
テストしているバージョンです。

経過期間 [開始](#)
テストにかかった時間です。

欠陥 [ブッシュ追加](#)
2478
バグトラッカーの ID のリストです。

✓ 結果の追加 × キャンセル

- テスト結果を登録後 欠陥表示 URL の機能を使って、テスト結果から課題管理ツールの課題/チケットにアクセスすることができます。

欠陥 プラグイン

欠陥プラグインを利用すると、以下のことができるようになります。

- TestRail から課題管理ツールの新規課題/チケットを作成する
- TestRail から課題管理ツールの課題/チケット情報を閲覧する

欠陥プラグインは [管理] > [統合] > [欠陥] タブ で設定することができます。

欠陥プラグイン

TestRailと欠陥トラッカーを統合するためのプラグインです。グローバル設定を使用する場合は空のままにします。プラグインの設定は下で行うことができます。 [詳細](#)

欠陥トラッカーとセキュアな接続を行うために、HTTPSを使用してください。ユーザーおよびパスワードを安全に保存するため、ユーザー変数を使用することが推奨されます(ユーザーごとにログインをカスタマイズするのにも使用できます)。 [詳細](#)

▶ 欠陥ダイアログの説明フィールドに表示されるテンプレートを入力します。

プルダウンから、連携する課題管理ツールを選択します。利用できる課題管理ツールについては、[TestRail の統合ツールごとの手順](#)をご確認ください。

欠陥プラグイン

Assembla
Axosoft / OnTime REST
Axosoft / OnTime SOAP (old versions)
Axosoft_v17_REST
Bitbucket
Bugzilla
Email
Gemini
GitHub
JIRA Cloud
JIRA REST (JIRA Server 5.x, 6.x, 7.x and later)
JIRA SOAP (JIRA Server 3.x, 4.x)
Lighthouse
Mantis
Manuscript
PivotalTracker
Rally
Redmine
Redmine_custom

▶ 欠陥ダイアログの説明フィールドに表示されるテンプレートを入力します。

ツールを選択すると、自動で設定に必要な項目が下のテキストフィールドに挿入されますので、ご利用の環境に合わせて変更してください。

欠陥プラグイン

Redmine ▼

TestRail と欠陥トラッカーを統合するためのプラグインです。グローバル設定を使用する場合は空のままにします。プラグインの設定は下で行うことができます。 [詳細](#)

```

; Please configure your Redmine connection below
; For Redmine versions older than 1.3, you need to
; activate the legacy mode of this plugin. Please
; contact the Gurock Software support in case you
; have any questions or refer to the documentation:
; http://on.gurock.com/redmine35
[connection]
address=http://<your-server>/
user=testrail
password=secret

```

課題管理ツールのユーザー名、パスワードを、共通で使用せず、TestRail のログインユーザー毎に変更されたい場合は、ユーザー変数を利用します。各ユーザーの個人設定から、課題管理ツールへのログインユーザー、パスワードを設定することができるようになります。

ユーザー変数の利用方法は、[欠陥：ユーザー変数](#) をご確認ください。

動作例

- テスト結果の欠陥フィールドの [プッシュ](#) リンクをクリックします。

結果の追加 ✕

ステータス*

Passed ▼

テストステータスを設定します (Passed, Failed など)。

コメント 📄 🗨️ ?

テスト結果の説明です。

添付ファイルはありません。

ファイルを添付するには、ここにドロップするか、クリックして参照します。

アサイン

▼

他のチームメンバーに割り当てます。

バージョン

▼

テストしているバージョンです。

経過期間 [開始](#)

▼

テストにかかった時間です。

欠陥 [プッシュ](#) [追加](#)

▼

バグトラッカーの ID のリストです。

✓ 結果の追加
✕ キャンセル

- 表示される「欠陥のプッシュ」画面に課題/チケットの登録に必要な情報を追加して [登録](#) ボタンを押下します。



欠陥のプッシュ

題目*

Failed test: 文書のマージンを変更し、PDFエクスポートとの相互運用性をテストする

トラッカー* プロジェクト* カテゴリー

バグ Redmineプラグインの開 フロント

説明

T3575: 文書のマージンを変更し、PDFエクスポートとの相互運用性をテストする
<http://18.236.40.152/testrail/index.php?/tests/view/3575>

✓ 登録 × キャンセル

- 登録に成功すると「結果の追加」画面の 欠陥 に自動で、課題/チケット ID が挿入されます。



結果の追加

ステータス*

Failed

テストステータスを設定します (Passed, Failed など)。

コメント

テスト結果の説明です。

添付ファイルはありません。

ファイルを添付するには、ここにドロップするか、クリックして参照します。

アサイン

他のチームメンバーに割り当てます。

バージョン

テストしているバージョンです。

経過期間 [開始](#)

テストにかかった時間です。

欠陥 [プッシュ 追加](#)

2479

バグトラッカーの ID のリストです。

✓ 結果の追加 × キャンセル

- 結果を追加すると、TestRail 上から課題/チケット ID のリンクを利用して、課題管理ツール (ここでは Redmine) 上の課題/チケットを確認できます。

Failed

このテストは'Failed'としてマークされました

2020/12/23 16:56 吉田翔太 編集

欠陥
2479

Redmineプラグインの開発(LGC) 検索:

+ 概要 活動 ロードマップ チケット カンバン バックログ 作業時間 ガントチャート 文書 Wiki ファイル EVM

バグ #2479 編集 時間を記録 ☆ フォッチ チケット関連 複製 削除

水 Failed test: 文書のマージンを変更し、PDFエクスポートとの相互運用性をテストする
水口 葉 が4分前に追加.

| | | | |
|----------|------|------------|------------|
| ステータス: | 新規 | 開始日: | 2020/12/23 |
| 優先度: | 通常 | 期日: | |
| 担当者: | - | 実開始日: | |
| カテゴリ: | フロント | 完了日: | |
| 対象バージョン: | - | 進捗率: | 0% |
| ポイント: | 5 | 予定工数: | |
| 工程: | 要件定義 | スクリーンショット: | |
| ▼ カテゴリ2 | | ログファイル: | |
| コメント: | コメント | 作業難易度: | 3 |

説明 引用

T3575: 文書のマージンを変更し、PDFエクスポートとの相互運用性をテストする
<http://18.236.40.152/testrail/index.php?/tests/view/3575>

チケットセットから子チケット作成 追加

子チケット 追加

関連するチケット 追加

編集 時間を記録 ☆ フォッチ チケット関連 複製 削除

他の形式にエクスポート: Atom | PDF

Powered by Redmine © 2006-2019 Jean-Philippe Lang

- TestRail 上の 課題/チケット ID のリンクにマウスカーソルをあてると、ポップアップ表示で課題/チケットの最新情報を確認できます。



欠陥プラグインのカスタマイズ

デフォルトで用意している欠陥プラグインは、TestRail がサポートしている課題管理ツールの標準的な構成で利用できるようになっています。課題管理ツール側でカスタムフィールドが存在し、かつ、必須項目に設定している場合などは用意されているデフォルトの欠陥プラグインでは課題/チケットの登録ができない場合があります。

その場合、ご利用環境に合わせて欠陥プラグインをカスタマイズしていただくことが可能です。

欠陥プラグインのカスタマイズについては、[カスタム欠陥プラグインの作成](#)、[例：欠陥プラグインのカスタマイズ](#)をご確認ください。

また、テクマトリックスでは Redmine のカスタムフィールドに対応した[カスタム欠陥プラグイン](#)をご提供しています。

6-2-2. 参照 - 要件管理ツール連携

参照機能を利用して TestRail と要件管理ツールを連携すると、要件管理ツールに保存された要件と TestRail のテストケースやテストランをリンクすることができます。

参照機能では以下の 2 つをサポートしています。

- 参照 URL
- 参照プラグイン

参照 URL

参照 URL を使用すると、以下のことができるようになります。

- TestRail から要件管理ツール上の、要件作成画面に遷移して新しい要件を作成する
- TestRail から要件管理ツール上の 要件ページに遷移する

参照URL は [管理] > [統合] > [参照] タブ で設定することができます。

参照表示 URL

要件管理ツールの要件表示するための URL アドレスです。

この URL を使うと、テストケースやテストランの 参照 フィールドに要件管理ツールの要件 ID を登録しておく、TestRail から画面遷移することができます。

参照表示 URL に登録する URL の形式は、ご利用の要件管理ツールによって異なります。TestRail と統合可能なツールと、そのツールの詳しい設定方法については、[TestRail の統合 ツールごとの手順](#) をご確認ください。

動作例

- テストケースの参照フィールドに要件の ID を設定 (ここでは 123 を指定)

The screenshot shows the 'Edit Test Case' interface. The 'Reference' field is highlighted with a red box and contains the value '123'. The form includes the following fields:

- Section*: 前提条件
- Template*: テストケース(手順)
- Type*: マニュアル記載
- Priority*: Medium
- View: 6m
- Reference: 123 (highlighted)
- Automation: None

- 入力した ID がリンクになります。

The screenshot shows a list of test cases. The 'Reference' column for the selected test case (ID C6) shows '123' as a clickable link, highlighted with a red box. The table below summarizes the visible data:

| ID | Title | Type | Reference | Template |
|-----|-------------------|---------|-----------|--------------|
| C6 | 複数ページの文書で目次を... | マニュアル記載 | 123 | テストケース(手順) |
| C7 | マルチモニタースタムでWin... | 自動化 | | テストケース(テキスト) |
| C8 | アシメトリキーボードバイ... | マニュアル記載 | | テストケース(手順) |
| C9 | マルチモニタースタムでWin... | ユーザビリティ | | テストケース(テキスト) |
| C10 | 文書のマージンを変更し、P... | ユーザビリティ | | テストケース(テキスト) |

- リンクをクリックすると、要件管理ツール (ここでは Redmine) の要件に遷移します。

機能 #123 該当する要件のページが表示される

大 機能 #122: 設計_テスト1
設計_テスト10
大橋 宏行 が約2ヶ月前に追加、約15時間前に更新。

ステータス: 終了
優先度: 通常
担当者: -
対象バージョン: -

開始日: 2020/12/07
期日: 2020/12/08
実開始日: 2020/12/08
実終了日: 2020/12/09
進捗率: 100%
予定工数: 5.00時間
作業時間: 5.00時間

ポイント: 1
カテゴリ: -
コメント: 作業量: 9

チケットセットから子チケット作成 追加

子チケット 追加

関連するチケット 追加

| チケット | ステータス | 優先度 | 担当者 | 開始日 | 期日 | 進捗率 |
|--|-------|-----|-----|------------|------------|-----|
| 次のチケットに後続 (3日) ウェブサイトのリニューアル(EVM) - バグ #179: バグ_画面レイアウト3 | 新規 | 通常 | | 2020/11/02 | 2020/12/03 | |

参照追加 URL

要件管理ツールに新しい要件を追加するための画面を表示するための URL アドレスです。

この URL を使うと、テストケースやテストランの登録画面から要件管理ツールの新規要件追加画面に遷移することができます。

参照追加 URL に登録する URL の形式は、ご利用の要件管理ツールによって異なります。TestRail と統合可能なツールと、そのツールの詳しい設定方法については、[TestRail の統合 ツールごとの手順](#) をご確認ください。

動作例

- 「テスト ケースの追加」画面において参照フィールド横の **追加** リンクをクリックします。

テストケースの追加

マニュアルベーステスト

タイトル*

セクション* テンプレート* タイプ* 優先度*

前提条件 テストケース(テキスト) マニュアル記載 Medium

見積り 参照 **追加** 自動化種別

None

前提条件

The preconditions of this test case. Reference other test cases with {C#1} (e.g., {C17}).

- 要件管理ツール (ここでは Redmine) の新規要件作成画面が起動します。



テストケースの追加

マニュアルベーステスト

タイトル*

セクション* テンプレート* タイプ* 優先度*

前提条件 テストケース(テキスト) マニュアル記載 Medium

見積り 参照 2478 追加 自動化種別

None

- テストケースを登録後 参照表示 URL の機能を使って、テストケースから要件管理ツール (ここでは Redmine) の要件にアクセスすることができます。

参照プラグイン

参照プラグインを利用すると、以下のことができるようになります。

- TestRail から要件管理ツールの要件情報を閲覧する

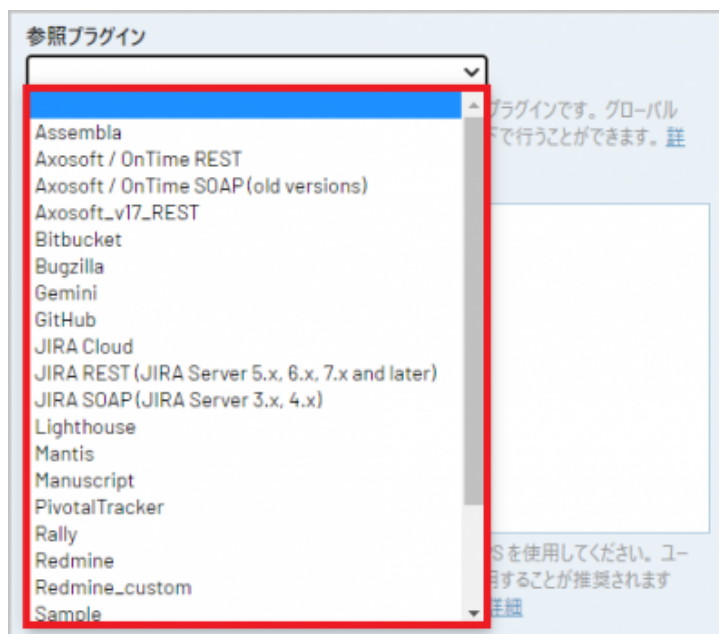
参照プラグインは [管理] > [統合] > [参照] タブ で設定することができます。



参照プラグイン

TestRailと要件、欠陥、またはバグトラッカーを統合するためのプラグインです。グローバル設定を使用する場合は空のままにします。プラグインの設定は下で行うことができます。 [注](#)

プルダウンから、連携する要件管理ツールを選択します。利用できる要件管理ツールについては、[TestRail の統合ツールごとの手順](#) をご確認ください。



ツールを選択すると、自動で設定に必要な項目が下のテキストフィールドに挿入されますので、ご利用の環境に合わせて変更してください。



動作例

- TestRail上の要件IDのリンクにマウスカーソルをあてると、ポップアップ表示で要件の情報を確認されます。



6-2-3. プロジェクト毎の課題/要件管理ツール連携

[管理] タブ > [統合] で設定した場合、TestRail 上の全てのプロジェクトに対して有効な設定になります。

プロジェクト毎に利用している課題/要件管理ツールが異なる場合は、[管理] タブ > [プロジェクト] で設定を変更するプロジェクトを選択後、[欠陥] タブ、[参照] タブで設定してください。

6-3. API 有効化

TestRail の REST API を利用する場合や、Ranorex と連携する場合、[管理] タブ > [サイト設定] > [API] タブから API の有効化が必要です。



6-4. リンク

- 前の章：5. テストケースのインポート
- 次の章：7. その他
- 関連マニュアル：TestRail の統合
- 関連マニュアル：TestRail API (v2)

7. その他

本章では、知っているると便利な TestRail の Tips を紹介します。

7-1. バックアップと復元

TestRail には自動バックアップ機能がありません。そのため、定期的に TestRail のバックアップを取得することを推奨いたします。

TestRail のバックアップは以下の 4 点を取得してください。

- データベース
- インストールディレクトリ
- 添付ファイル
- レポートファイル

7-1-1. データベース

バックアップ

ご利用のデータベースに応じて以下のようなツールを利用して論理バックアップを取得してください。

- MySQL (Linux/Unix 環境) の場合：mysqldump または phpMyAdmin
- SQL Server (Windows 環境) の場合：SQL Server Management Studio

TestRail インストールマシンの OS 間マイグレーション時 (Windows ⇒ Linux/Unix、Linux/Unix ⇒ Windows) は、データ移行用のスクリプトをご用意しておりますので[お問い合わせ](#)ください。

復元

ご利用のデータベースに応じてバックアップを復元します。

バックアップを取得したデータベースと同じバージョンのデータベースでバックアップを復元してください。(データベースのバージョンアップが必要な場合、復元後にバージョンアップしてください。)

- MySQL (Linux/Unix 環境)
 - 論理的な MySQL バックアップには、データベースを復元するための SQL コマンドが含まれているので、データベースに対して論理バックアップファイルを適用します。それには、mysql コマンドライン ツールを使用して以下を実行します。
 - `mysql -u <username> -p --default-character-set=utf8 <database> <backup.sql`
 - `<username>` を MySQL のログイン名に、`<database>` をデータベース名に置き換えてください。
 - TestRail のインストールで作成された空のデータベースが、バックアップの既存データに置き換えられます。コマンドを実行する前に、復元先が正しいデータベースとマシンであるかを再確認してください。
 - SQL Server (Windows 環境)
 - SQL Server Management Studio からデータベースに対してバックアップ SQL ファイルを実行します。

- Management Studio でスクリプトを実行する前に、左上隅のドロップダウンで正しいデータベースが選択されていることを確認してください。
- あるいは、sqlcmd コマンドライン ツールを使って、次のようにスクリプトを実行することもできます。
 - `sqlcmd -x -f 65001 -S localhost -U <username> -d <database> -i backup.sql`
 - `<username>` をログイン名に、`<database>` をデータベース名に置き換えてください。
 - TestRail のインストールで作成された空のデータベースが、バックアップの既存データに置き換えられます。コマンドを実行する前に、復元先が正しいデータベースとマシンであるかを再確認してください。

7-1-2. インストールディレクトリ

TestRail のインストールディレクトリには、TestRail の設定ファイル (データベース接続情報などが定義されています) やログファイル、カスタムスクリプトなどが含まれます。

バックアップ

TestRail インストールディレクトリをそのままコピーしてバックアップを取得してください。

復元

以下の手順でインストールディレクトリを復元してください。

- 取得したバックアップの復元の前に、バックアップを取得したバージョンと同じバージョンのインストールモジュールをご利用環境にインストールします。
 - 古いバージョンのインストールモジュールが必要な場合は、[お問い合わせ](#)ください。
- 取得したバックアップを TestRail インストールディレクトリに上書きします。
- TestRail が正常に動作することを確認します。

注意

復元環境がバックアップを取得した環境と異なる場合、[\[管理\]](#) で以下の設定を変更する必要があります。

- [\[サイト設定\]](#) > [\[アプリケーション\]](#) タブ > 添付ファイルのディレクトリ
- [\[サイト設定\]](#) > [\[アプリケーション\]](#) タブ > レポートのディレクトリ
- [\[サイト設定\]](#) > [\[電子メール\]](#) タブ > Email サーバー
- [\[サイト設定\]](#) > [\[電子メール\]](#) タブ > Email 送信元アドレス
- TestRail インストールディレクトリの [config.php](#)

7-1-3. 添付ファイル

TestRail 上にアップロードした添付ファイルの格納先を確認してください。

- [\[管理\]](#) > [\[サイト設定\]](#) > [\[アプリケーション\]](#) タブ > 添付ファイルのディレクトリ

バックアップ

添付ファイル格納先のディレクトリをそのままコピーしてバックアップを取得してください。

復元

バックアップで取得したディレクトリを復元してください。

7-1-4. レポートファイル

作成したレポートの格納先を確認してください。

- [管理] > [サイト設定] > [アプリケーション] タブ > レポートのディレクトリ

バックアップ

レポート格納先のディレクトリをそのままコピーしてバックアップを取得してください。

復元

バックアップで取得したディレクトリを復元してください。

7-2. ポートを変更する

TestRail が利用するポートを変更するには、TestRail を稼働している WEB サーバー (IIS または Apache) の設定を変更します。

7-2-1. Apache (Linux/Unix 環境) でポートを変更する

※ ご利用の環境によっては操作手順が異なる可能性があります。

- Apache の設定ファイルを開きます。
 - 例 : vi /etc/apache2/ports.conf
- Listen XX と記載されている行を任意のポートに変更してファイルを保存します。

```

1 # If you just change the port or add more ports here, you will likely also
2 # have to change the VirtualHost statement in
3 # /etc/apache2/sites-enabled/000-default.conf
4 Listen 80
5 #
6
7 <IfModule ssl_module>
8     Listen 443
9 </IfModule>
10
11 <IfModule mod_gnutls.c>
12     Listen 443
13 </IfModule>
14
15 # vim: syntax=apache ts=4 sw=4 sts=4 sr noet

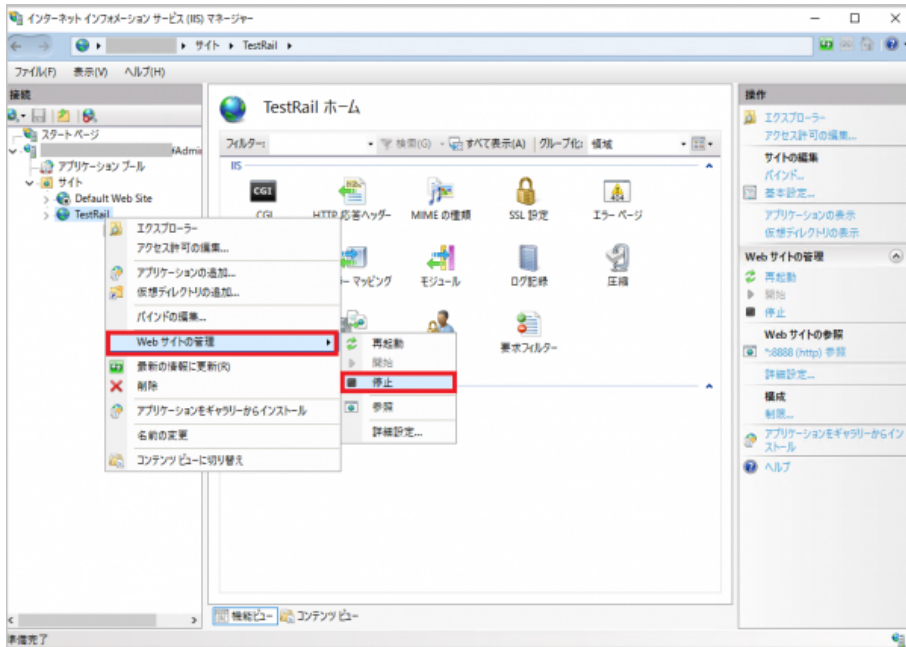
```

- Apache を再起動します。
 - service apache2 restart

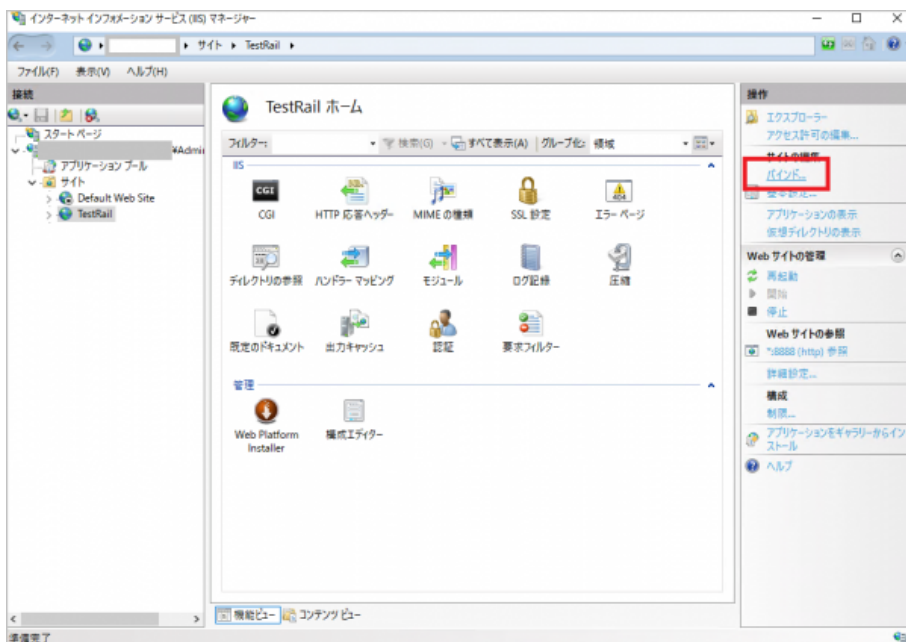
7-2-2. IIS (Windows 環境) でポートを変更する

※ IIS 10 で動作確認をしています。ご利用バージョンによっては操作手順が異なる可能性があります。

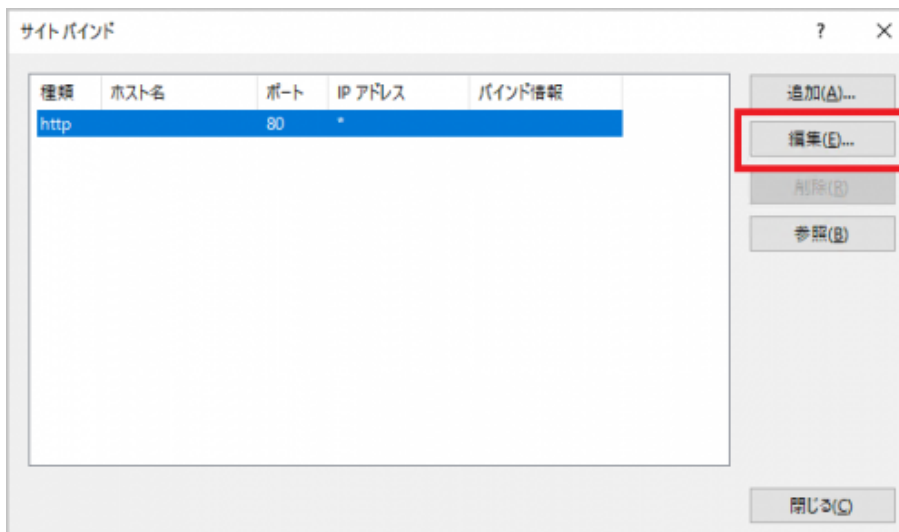
- [スタート] メニューから [プログラム] > [Windows 管理ツール] > [インターネットインフォメーションサービス(IIS)マネージャ] を起動します。
- [サイト] から、TestRail 用のサイト設定を選択し、右クリック > [Web サイトの管理] > [停止] を選択します。



- [操作] > [バインド] をクリックします。



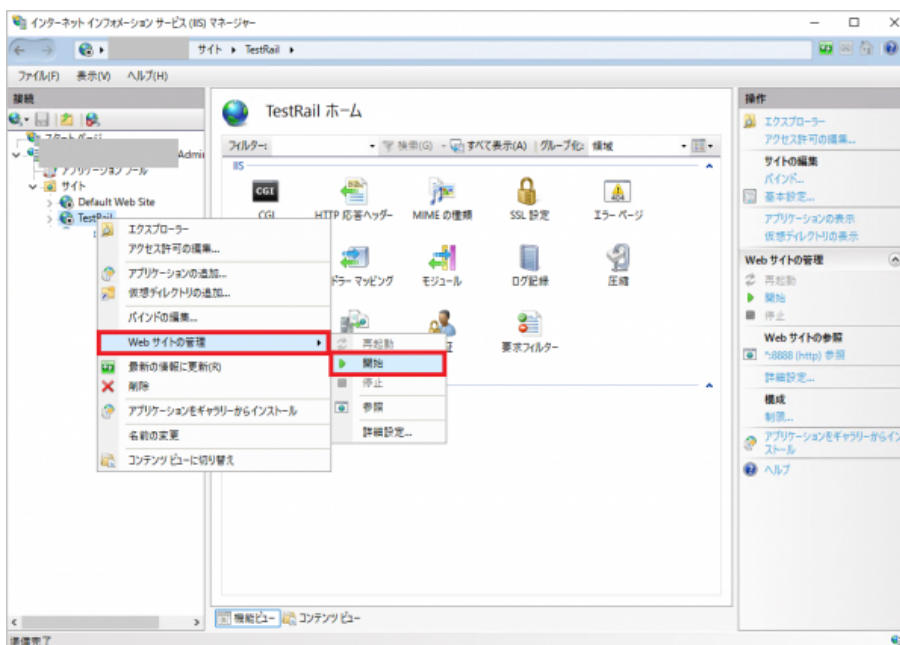
- [編集] をクリックします。



- ポートを任意の値に変更後、設定を保存します。



- [サイト] から、TestRail 用のサイト設定を選択し、右クリック > [Web サイトの管理] > [開始] を選択します。



7-3. 添付ファイルのアップロード上限サイズを変更する

テストケースやテスト結果にファイルを添付すると「Maximum upload size was exceeded」が表示されてしまう場合、ご利用環境の php の設定を変更してください。

php.ini の以下の2つの項目を変更し、Webサーバーを再起動してください。

```
# 変更例です。ご利用環境に合わせて変更してください。
post_max_size=64M
upload_max_filesize=64M
```

7-4. プロキシサーバーを設定する

TestRail サーバーから外部サイトへのアクセスにプロキシが必要な場合は、TestRail にプロキシサーバーの設定が必要です。

TestRail の config.php ファイルをテキストエディタで開き、DEPLOY_PROXY_HOST オプションと DEPLOY_PROXY_PORT オプションを有効にします。

```
define('DEPLOY_PROXY_HOST', 'proxy-hostname-or-ip'); // Proxy サーバーのホスト名またはIPアドレス
define('DEPLOY_PROXY_PORT', 8080); // Proxy サーバーのポート
define('DEPLOY_PROXY_USER', 'proxy-user'); // (不要な場合は削除)Proxy サーバーユーザー名
define('DEPLOY_PROXY_PASSWORD', 'proxy-password'); // (不要な場合は削除)Proxy サーバーパスワード
```

7-4-1. LB (ロードバランサ) で SSL を終端させている環境で利用する

TestRail は https 経由でアクセスされたことを認識できないため、URL をオーバーライドする必要があります。以

下の 2 点を実施してください。

- TestRail の config.php ファイルをテキストエディタで開き、DEPLOY_REQUEST_SERVER オプションと DEPLOY_REQUEST_PATH オプションを有効にします。

```
define ('DEPLOY_REQUEST_SERVER','https://');  
define ('DEPLOY_REQUEST_PATH','testrail.mycompany.com');
```

- TestRail の以下の画面から、Web アドレスの URL も同様に “https://XXXX” に変更します。
 - [管理] > [サイト設定] > [アプリケーション] タブ > Web アドレス

7-5. リンク

- 前の章 : [6. 高度な設定](#)
- 関連マニュアル : [TestRail 入門](#)
- 関連マニュアル : [TestRail のバックアップを作成](#)
- 関連マニュアル : [TestRail のバックアップを復元](#)

お問い合わせ先

テクマトリックス株式会社
ソフトウェアエンジニアリング事業部



03-4405-7853



testrail-info@techmatrix.co.jp



<http://www.techmatrix.co.jp/product/testrail/>